

## 目次

- 1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 . . . . . p. 1
- 2 人材需要の動向等社会の要請 . . . . . p. 11

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

## 1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### (1) 学生の確保の見通し

#### ア 定員充足の見込み

航空・マネジメント学群（以下「本学群」という。）では、入学定員 140 人、収容定員 560 人に設定した。

これは、入学定員 140 人を確保する見通しの根拠として、第三者機関によるアンケート調査等を実施した結果により判断したものである。詳細については後述するが、主な受験対象者となる高校 2 年生に対してのアンケート調査において、本学群を「受験したい」と回答した 917 人のうち、受験し、合格した場合に「入学したい」と強い入学意欲を示した回答は 479 人であり、本アンケート調査において、入学定員 140 人を大きく上回る結果を得た。このことから、本学群が求める学生を確保することは十分に可能であると判断した（資料 1）。

また、本学群への入学に興味を示す受験生は、プロのパイロット養成の他、「観光」や「国際」系統の分野にも興味を示す受験生であると本学では想定している。同分野の私立大学全体の入学志願動向や、本学の近隣に所在する同分野学部学科の過去 5 年間の一般入試動向と平成 30 年度の充足状況を調査したところ、入学定員 140 人の学生確保は十分に可能であると判断している。

前述のとおり、本学では既にビジネスマネジメント学群アビエーションマネジメント学群フライト・オペレーション（パイロット養成）コースにおいてプロのパイロットを育成し、社会に輩出すべく教育を行っているが、これを分離・独立し、新たに「高度な専門性と卓越した英語力を備えた航空各分野のジェネラリストの育成」を教育上の目的とした本学群の設置を行う。本学群では、学生が将来、航空業界における目指したい分野を明確にし易くなるよう、各学問領域をそれぞれ「フライト・オペレーションコース」「航空管制コース」「整備管理コース」「空港マネジメントコース」という、4つのコースを設けることとした。どのコースにおいても、海外キャンパスにおける長期間の学修又は 1 セメスターの留学を必須としている。留学先の確保や留学先での学修の質の担保、教員体制の整備等の要素も含めた教育体制を総合的に勘案し、かつ本学群における教育内容の質の担保及び教育の効果を最大限に発揮することが可能と判断できる人員として、入学定員 140 人、収容定員 560 人という規模とした。

この入学定員 140 人については、各コースに対して定員は設けないまでも目安を設けており、1 学年あたりの学生数は下表（表 1）のとおりである。

【表1：各コースの1学年あたりの学生数】

コース 名称	フライト・ オペレーション コース	航空管制コース	整備管理コース	空港 マネジメント コース
学生数	40人程度	40人程度	30人程度	30人程度

上記の学生数は、各コースの学生数が前後しても十分に教育の質を担保して対応することができるように設定している。

本学群の専任教員数は18人である。大学設置基準第13条に規定される必要専任教員数16人（教授8人）を上回る配置とすることにより、きめ細かな教育を行う体制を整えている。職位の内訳は、教授9人、准教授6人、講師3人である。また、本学は研究組織である「学系」と教育組織である「学群」を分離し、教員の所属は学系としている。言い換えるなら、「学系に所属し、学群に教えに行く」という体制を整備している。そのため、大学全体として俯瞰すると、量的に十分な教員をもって各教育組織の授業を担当しているといえる。

施設・設備面からは、本学群を設置する多摩キャンパスは、現在16,770.00 m<sup>2</sup>の校地面積を有している。既設のアビエーション学類フライト・オペレーションコースと共用することとなるが、本学群の開設に伴う収容定員増を踏まえても、大学設置基準上の条件を十分に満たしている。本学群で使用する講義室、演習室、飛行訓練装置（FTD/Flight Training Device）等については、授業科目の登録者数や講義形態を確認しながら教室の割り当てを適切に行うことで、定員に応じた教室数を確保し、教育研究に支障の無いよう配慮する。

講義室21室、実験実習室3室、情報処理学習施設1室を整備しており、高画質プロジェクター、大型モニター、ブルーレイ/DVDプレーヤー等の最新の教卓集中管理型のAV設備を整えているが、最新技術環境に合わせた情報環境を提供することを求められている。

本学群の教育課程を実施するにあたっては、開設までに次のような整備を実施する。

学生自習用PCのソフトウェア更新、コンピュータ教室のPCの新機種への更新及びソフトウェア更新、50インチモニターの設置、事務室PCの新機種への更新、複合機等の新機種への更新、教員用PCの新規環境整備、学内無線LAN環境のエリア拡大等である。近年、本学では特色ある教室棟のキャンパス整備を推進しており、平成18年度には大教室・中教室等が中心となる明々館、平成19年度には小教室・PC教室等が中心となる学而館が竣工された。平成27年度にはフライト・オペレーションコースの飛行訓練等に必要の教材として最新の飛行訓練装置を導入し、教育研究活動に勤しむ環境整備をしている。また、本学群の開設に伴い、導入済みの飛行訓練装置とは別の新たな飛行訓練装置を導入する予定である。これを導入することによって、飛行訓練の更なる充実のみならず、管制に関する

るオペレーションの演習や実習にも活用し、本学群における学習の幅を広げることに繋がる。

これらのことから、収容定員を 560 人増加した場合においても、本学学生の学修環境機能が低下することは無い。

## イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

### ①定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

#### 1) 高校生への進学意向調査（アンケート）の分析結果（資料 1）

本学群におけるニーズを客観的に捉えるため、第三者機関である株式会社高等教育総合研究所にアンケート調査を依頼した。調査の概要は以下のとおりである。

- 調査期間：平成 30 年 12 月から平成 31 年 2 月
- 調査対象：令和 2 年度の大学入試を受験する可能性が最も高い、平成 30 年度の高校 2 年生をアンケートの対象とした。
- 調査方法：南関東圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）に所在する普通科の高等学校 937 校に加え、北関東圏（茨城県、栃木県、群馬県）や関東周辺各県（福島県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、静岡県）の大学進学率が高い高等学校 180 校、合計 1,117 校に実施を依頼。実施の承認が得られた 132 校にアンケートを送付。各校の教員が調査対象である高校 2 年生にアンケート用紙を配付の上、回答後その場で回収した。
- 調査内容：アンケート項目は全 9 問、全て選択肢式とした。  
主な質問内容は、次のとおり。
  - 「回答者の基本情報（性別・居住地）について」
  - 「回答者の高校卒業後の希望進路について」
  - 「桜美林大学「航空・マネジメント学群（仮称）」への受験・入学意欲について」
- 実施校数：132 校（実施率 11.8%／依頼数 1,117 校）
- 有効件数：16,375 件（回収件数 16,409 件／有効件数率 99.8%）

上記の概要のとおり、本学の学生募集基盤となり得る東京、神奈川を中心とした関東近県の他、本学群の特長である「卓越した英語力」に興味を示す層が多く在籍すると想定される高等学校の高校 2 年生を対象に実施した。当該アンケートの結果においては、本学群を「受験したい」と回答した生徒は 917 人（全体の 5.6%）であった。この 917 人に対し、「合格した場合、入学したいですか」と問うたところ、479 人（「受験したい」と回答した生徒の 52.2%）から、「合格した場合、入学したい」という強い入学意欲を示す結果が得る

ことができた。この結果は本学群の入学定員 140 人を十分かつ大きく上回るものである。また、「合格した場合、入学したい」と回答した 479 人を所在地別で分析したところ、「東京都」及び「神奈川県」に居住する高校 2 年生が 378 人であり、本学へ通学が可能な地域に居住する高校 2 年生のみでも、本学群の入学定員 140 人を大きく上回る結果であった。なお、当該アンケート調査を実施していない東京都や神奈川県の高専を中心として、今回調査を実施していない高専からの多数の受験が予見されることから、十分な定員充足が見込まれる。

さらに、「受験しない」と選択した生徒のうち、599 人（「受験しない」と回答した 15,193 人の 3.9%）は「興味・関心のある分野だが、更に詳細を知った上で検討したいから」と回答している。これは、アンケート用紙（資料 1 後半）に記載されている内容のみで回答しているためであると推測できるため、後述する広報活動において、高校訪問や出張講義等の積極的展開とオープンキャンパスの更なる充実を図っていくことにより、より安定した定員の充足を見込むことが可能である。

## 2) 本学及び本学ビジネスマネジメント学群の志願者数推移（表 2）

下表（表 2）は、本学及びビジネスマネジメント学群（以下「BM学群」という。）の平成 27 年度から令和元年度に入学する者を対象とした過去 5 年間における志願者数の推移である。総論的に、大学全体の志願者数は増加していることが分かる。ビジネスマネジメント学群においても同様に、平成 27 年度以降、入学定員 480 人に対し、志願者数は増加していることが分かる。これは、広報活動の改善、カリキュラム改革等を行ってきた結果によるものである。平成 29 年度以降は、2,462 人、3,475 人、6,390 人という志願者を得ることができ、加速度的に志願者数を増加させている。後述する学生募集活動等を行っていくことによって、本学群においても、求める人材を安定的に確保することは十分に可能であると判断している。

【表 2：本学及びBM学群の志願者数の推移（平成 27 年度から平成 31 年度まで）

年度	大学全体 志願者数	入学定員	志願者数	志願倍率	入学者数	入学定員 充足率
平成 27 年度	7,465 人	480 人	1,986 人	4.13 倍	602 人	125%
平成 28 年度	8,273 人	480 人	2,195 人	4.57 倍	504 人	105%
平成 29 年度	10,269 人	480 人	2,462 人	5.12 倍	481 人	100%
平成 30 年度	14,089 人	480 人	3,475 人	7.23 倍	492 人	102%
平成 31 年度	22,794 人	480 人	6,390 人	13.31 倍	514 人	103%

## 3) 私立大学の観光学部、国際学部の志願動向（資料 2）

本学群の教育上の目的は、「高度な専門性と卓越した英語力を備えた航空各分野のジェネ

ラリストの育成」であり、その特長は、学生が将来航空業界の専門的職種を目指したい分野かつ航空に関する隣接し合う各専門分野に応じた4つのコース（「フライト・オペレーションコース」「航空管制コース」「整備管理コース」「空港マネジメントコース」）において学生に教育を行う点である。以上を鑑み、本学群への入学に興味を示す受験生は、「パイロット養成」の他、「観光」や「国際」系統の各分野への志願も視野に入れてしていると想定している。このうち、「観光」と「国際」分野における私立大学の志願動向を、日本私立学校振興・共済事業団が毎年度公表している『私立大学・短期大学等入学志願動向』を用いて調査した。なお、抽出した学部区分は「観光学部」「国際観光学部」「国際学部」の3つとした。

学部数は、平成26年度の16学部から平成30年度には25学部へと、5年間で9学部の増加となっている。これは、「国際学部」が年々増加していることと、平成29年度から「国際観光学部」が新たに追加されたことが要因である。学部数の増加に伴い、入学定員も平成26年度の3,190人から平成30年度の5,780人と、5年間で2,590人の増加となっている。入学定員が増加している状況の中、志願者数は18,666人、24,553人、31,145人、52,621人、54,622人と、5年間で約3倍程度の規模となっており、志願倍率も平成26年度の5.9倍から平成30年度には9.5倍と、競争率も格段に高まっている状況にある。このように、本学群への入学に興味を示す受験生が志願すると推測される「観光」や「国際」系統の各分野における私立大学の志願動向は、増加が継続している状況となっている。

#### **4) 私立大学・航空操縦学分野の募集状況（資料3）及び私立大学・航空操縦学分野の充足状況（資料4）**

エアラインの航空操縦学を有する大学の一般入試及び大学入試センター利用入試における過去5年間の志願者、受験者、合格者及び実質倍率（受験者数／合格者数）を集計した。なお、本項目では、同等の分野を有する大学は本学を除き全国で5大学のみであり、うち公表をしている4大学分の数値を示す。

今回集計した4大学における航空操縦学の入学定員は、平成30年度時点で20人から50人程度の規模となっている。平成26年度から平成30年度までの4大学を合計した志願者数は、217人、385人、373人、395人、368人で推移しており、平成27年度以降は380人前後で安定している状況にある。平成30年度は受験者数360人に対して合格者は117人であり、実質倍率は3.08倍でまずまずの水準で選抜が行われているということが窺える。また、本学の近隣に位置する大学は東京都と神奈川県で1校ずつあり、それぞれ実質倍率は2.5倍から4.8倍程度で推移している。特に、平成30年度は4.86倍と4.00倍と、高い水準で選抜が行われていたことが窺える。

この4大学における平成30年度時点での入学定員及び収容定員それぞれの充足状況を調査したところ、4大学のうち3大学で95%を上回っている状況であることが分かった。但し、いずれの大学も航空操縦学をコースや専攻で開設しており、公表されている入学者数・

在籍者数は学部若しくは学科全体での数値となっている。純粋な航空操縦学としての充足状況が把握できるのは1大学のみであり、平成30年度の入学定員充足率は96%、収容定員充足率は98.5%と、100%には満たないものの、志願者数と充足状況を勘案すると、入試による選抜がしっかりと機能している状況にあり、その上で入学するための要件を満たし入学していることを考えると、単なる定員割れではなく、選抜の結果によるものであることは容易に推測することができる。なお、当該大学の入学定員は50人であり、他大学と比較しても多く設定されている。

以上から、航空操縦学の分野は一定した志願者及び入学者が存在する分野であることが分かる。

#### **5) 近隣の観光系学部の募集状況（一般選抜のみ）（資料5）及び近隣の国際系学部の募集状況（一般選抜のみ）（資料6）**

「3）私立大学の観光学部、国際学部の志願動向（資料2）」において説明したとおり、本学群への入学に興味を示す受験生は、「観光」や「国際」の分野に志願する傾向にあると想定している。そこで、東京都及び神奈川県に所在する観光系学部の一般入試及び大学入試センター試験利用入試の過去5年間の志願者、受験者、合格者及び実質倍率（受験者数／合格者数）を集計した。なお、現在、東京都及び神奈川県に所在する私立大学の観光系学部は11大学あり、うち10大学で各数値が公表されている。

平成26年度から平成30年度までの10大学を合計した志願者数は、7,270人、7,273人、8,016人、10,370人、10,375人で推移しており、増加傾向にあることが分かる。平成30年度は受験者数10,253人、合格者1,814人となっており、実質倍率は5.65倍と、高い水準での選抜がなされていることが窺える。

これと同様に、国際系学部の一般入試及び大学入試センター試験利用入試の過去5年間の状況も集計した。今回抽出したのは、国際学部若しくは国際学科と称している大学のみ限定したところ、東京都及び神奈川県内に5大学所在していることが分かる。この5大学の平成26年度から平成30年度までを合計した志願者数は、6,207人、5,090人、4,427人、6,119人、5,920人となっており、概ね6千人前後で推移していることが分かる。平成30年度は受験者数5,742人、合格者1,168人となっており、実質倍率は4.92倍と、前述した観光系学部と同様、高い水準での選抜がなされていることが窺える。

上述のとおり、観光系統及び国際系統の各学部への志願者はともに多数の志願者が存在し、また、安定的に推移していることが分かる。本学群も設置の後には後述の募集活動をさらに充実させ、観光系学部や国際系学部等に志願する受験生を獲得していきたい。

#### **6) 18歳人口の将来推計（資料7）**

リクルート総研が公表する「18歳人口・進学率・残留率の推移 2017年」を基に分析した。我が国の18歳人口は、平成30年の1,174,801人から、令和10年には1,066,235人と、

今後 10 年間で 9.2 ポイントの減少が予想されている。一方で、本学が所在する東京都及び神奈川県では、東京都が平成 30 年から 2.2 ポイント、神奈川県が 4.0 ポイントの減少となっており、全国を比較しても小幅な減少に留まるものとされる予想となっていることから、全国の各地域と比較しても安定的な募集活動を行うことができる地域であること推測する。他方、本学ではこれまでも全国から多数の志願者、入学者を受け入れてきており、今後もこの方針を変更することは無い。我が国における 18 歳人口の減少は学生募集において重要な問題であると十分に理解しており、安定的に学校の運営を行っていくことができるよう、今後も募集活動は強化していく。

## ②学生の確保に向けた具体的な取組状況

### 1) 募集活動の体制

学長を中心として、本学群専任教員及び募集広報活動の主管部署である入試事務室職員の他、全学的な教職協働体制により、本学群への進学意欲の向上のための広報活動を展開する。

教員は、主として高等学校への出張講義や高等学校への訪問を中心に行う。実際の教育・研究を行う教員としての視点で、本学群の入学者受入れの方針に共感して入学した学生を育成するためにどのような教育を行っていくのかを、高等学校の教員及び生徒等に示していく。これに加え、高等学校での進学説明会や会場等で行われる進学相談会等にも職員とともに積極的に参加し、より魅力的な情報の発信を行う。

職員は、オープンキャンパスをはじめとする各種イベントの企画、広報媒体掲載の準備等を行いつつ、全国の高等学校訪問、進学ガイダンスや進学相談会等に積極的に参加することとしており、全学学生募集広報プロジェクトと呼称する全学的なチーム体制をもって臨むこととしている。

### 2) 募集活動の内容

#### i) 高校訪問

本学に自宅から通学できる範囲内にある東京都及び神奈川県を中心として、埼玉県、千葉県、山梨県東部、静岡県東部に所在する高等学校を定期的に訪問する。訪問に際しては進路指導担当教諭に広報活動を行いつつ、当該年度の受験生の進路志望状況等の情報収集も併せて行う。しかし、本学群は航空分野を学修するという特性から、本学他学群とは少し異なり、比較的全国各地の高等学校からの志願及び進学になることが想定され、積極的に訪問する。訪問に際しては、当該地域で開催される進学説明会の前後に各高等学校を訪問し、進学説明会への参加の要請や、進路担当教諭だけでなく本学への進学希望者がいる場合は、当該生徒との面談も行い、教育内容や入試の実施方法等についての相談を行う。

全国各地における高校訪問は、教職員だけでなく、本学卒業生や本学在学中の学生の保護者の協力も得て実施する。本学では在学中の学生の保護者の組織を地域ごとに設けてお



り、毎年1回、各地で「保護者懇談会」を行い、遠方地域から親元を離れて通う学生の保護者に対し、教育研究活動の説明や相談をはじめとした懇談を行っている。その説明等の中で、学生の出身高等学校や学習塾、当該地域の高等学校へ出向いてもらい、ポスターの掲示依頼や進路担当教諭等に説明等を行う。教職員の視点にはない保護者ならではの視点で本学の魅力を伝えてもらうことが可能であり、高等学校からの評判も良いことから、本学群についても保護者の視点から全国各地の高等学校への訪問も行う。

## ii) 出張講義及び模擬授業

本学の通学圏内である東京都及び神奈川県をはじめ、埼玉県、千葉県、山梨県東部、静岡県東部に所在する高等学校を中心に、専任教員による出張講義や模擬授業を積極的に実施する。教育関係の広告代理店からの依頼による出張講義や高等学校から直接の依頼によるもの等、様々な形で数多くの依頼がある。出張講義の内容は具体的に示されることが多く、その内容に応じて積極的に対応する。その際は、本学群専任教員全員で対応する。

## iii) オープンキャンパス

本学では、例年3月から11月にかけて、複数回にわたりオープンキャンパスを実施している。平成30年度は15,680人の参加者があり、近年は14,000人を超える来場者(表3)となっている。開催する時期によって対象学年が異なってくることから、随時実施内容を変えて行っている。主な実施内容としては、大学全体のガイダンスにはじまり、本学群等の教育内容等に関するガイダンスや体験授業、ワークショップ、海外留学等の国際交流や在学生との懇談、キャンパスツアー、入試ガイダンス等を実施する。開催に際しては各学群の専任教員、入試事務室を中心とした各部署の専任職員による教職員のほか、桜インターンと呼称している本学在学生が多数連携して行う。

オープンキャンパスは高校生に対して本学の魅力を伝える最大の広報手段の一つとなっており、本学群においてもこのオープンキャンパスを十分に活用する。

なお、例年10月下旬から11月上旬にかけて大学祭を開催しており、期間中は、受験生向けに「受験・進学相談会」も開催している。本学学生が躍動しているところを高校生に直接見てもらう良い機会であるとともに、本学への関心を高めるものとして継続的に実施している。

【表3：オープンキャンパス参加者数（平成26年度～平成30年度）】

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
人数	13,138人	13,704人	14,549人	14,432人	15,680人

## iv) ウェブサイト

ウェブサイトは高校生に対し、本学の魅力を伝える手段として最も有効な第一接触媒体

である。近年、リニューアルを行い、文字や写真だけの情報提供のみならず、映像やスマートフォンにも対応したサイトとし、本学の情報をより分かりやすく示し、かつ各学群のウェブサイトについても独自に魅力を発信できるものとなっている。文部科学省の「PR活動について」に従い、学群全体の概要、三つの方針（入学者受入の方針、教育課程編成の方針、学位授与の方針）、学群の特色や魅力、教員紹介、キャリア、学生生活等を掲載する。掲載内容については、文字だけでなく動画での紹介も取り入れ、より航空に関する具体的で魅力ある学群情報を発信していく。

随時更新を行い、常に最新の情報を提供することを心掛けるとともに、学生の声も多く発信していくことで、高校生が本当に知りたいことを学生の視点から伝えていくことにも注力する。

#### **v) 進学相談会及び進学説明会への参画**

進学情報誌や進学情報サイト等の各種媒体の広告代理店等が主催する全国各地の会場で開催する進学相談会、高等学校での進学説明会に積極的に参画する。この相談会や説明会は年間を通じて実施されており、時期により高校3年生だけでなく、1年生や2年生を対象として実施される。昨今は1年生から進学相談会へ参加する生徒も多く、早い時期から進路の意識が高まっている。本学群においても、1、2年生のうちから魅力を伝え、進学を希望してもらえよう意識づけを行う。

また、これらで出会った生徒たちには、以降も継続して本学の魅力を発信し続けていく。郵送物やソーシャルネットワークワーキングサービスも活用し、発信する時期によりその内容も変えていく。年度初めのうちはオープンキャンパスの情報、その後は留学等の国際交流、入試日程や入試内容等といったように、手元に届いた高校生が常に新しい情報に触れることができるようにする。

#### **vi) 進学情報誌等の媒体への掲出**

進学情報誌や進学情報サイトへの掲出も積極的に実施する。掲出に際しては、本学におけるこれまでの掲出実績を勘案しつつ実施するほか、本学群単体での各種媒体（進学情報誌や進学情報サイト、新聞、雑誌、メディア等）への掲出も積極的に行う。

#### **vii) 志願予定者の動向分析**

上述した高校訪問や進学相談会、オープンキャンパス等で得た志願予定者の動向等は、入試事務室において情報を集約し、分析を行う。また、文部科学省等の公的機関や進学媒体等より提供されるデータ等からも受験生や他大学等の動向も分析し、その分析結果を基に広報活動の内容を不断に改善しつつ、学生の確保に注力する。

## ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、入学金 100,000 円、授業料 1,204,000 円、教育充実費 50,000 円、施設設備費 300,000 円とし、初年度学生納付金の合計は 1,654,000 円とした。また、フライト・オペレーションコースにおいて航空機の操縦について専ら学修したい学生については、上記の学生納付金に加え、実験実習費として 1,200,000 円を加え、合計で 2,854,000 円とした。

本学の他学群と比較して本学群の学生納付金は最も高いが、工学関係の学群であることをはじめ、充実した実習・実技科目の配置をはじめ、各コースの多くの授業科目において少人数クラスの設定等を行っていること等、きめ細かな教育を行っていくために妥当であると判断している。

また、近隣の他大学の観光系、国際系学部や航空操縦学分野の学納金（資料 8、資料 9）と比較しても、実験実習費を除く学納金はやや高めの設定となっているが、上述のとおりきめ細かな教育を行っていくこととしており、妥当であると判断している。

## 2 人材需要の動向等社会の要請

### (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学は建学の精神である「キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成すること」を礎として教育研究に取り組んできた。今回、本学では航空分野に特化した専門性を有する教育組織として、「航空・マネジメント学群航空・マネジメント学類」の設置を計画している。本学群は建学の精神に基づき、「卓越した英語力を有し、工学等の学問分野に裏打ちされた専門性の高い確かな知識と航空の基礎となる必須の知識と技倆を併せ持った航空の分野で活躍する人材を養成する」ことを目的とする教育組織である。

近年、国境を越えた経済活動が増大し、経済活動のためのヒト・モノ・カネの国際的な移動が増大している。国境を越えた活動を支える航空の需要は大幅な増加が予測されている。航空機の増加、国際線・国内線の便数は大幅に増加が見込まれている一方で、これに伴う航空機操縦士、航空管制官、整備管理業務等の要員は不足しており、将来においては大幅な要員不足に伴う運航の遅延や欠航等といった影響が起これるといった予測もなされている。また、航空機を受け入れる空港においては、空港運営の効率性向上を目的に「民間の能力を活用した国管理空港等の運営等に関する法律（民活空港運営法）」が平成 25 年に施行され、順次空港の民営化が進められており、民間企業等において空港の管理・運営を担うことのできる人材の育成も必要とされる。

こうした大きな成長が見込まれる航空分野での人材需要に応えるべく、単に高度な専門的知識や技量だけでなく、「高度な専門性と卓越した英語力を備えた航空の各分野で活躍できるジェネラリストの養成を目的として、教養豊かな専門的職業人の養成に係る教育等を行う」ことを目指す。また、本学群の4つのコースにおいて養成しようとする人材像は次のとおりである。

#### 【フライト・オペレーションコース】

○フライト・オペレーションに関する知識及び技倆を兼ね備えた専門的な職業人養成を目指す。

#### 【航空管制コース】

○航空管制業務及びその業務を遂行するにあたって必要な他分野の知識を備えた人材養成を目指す。

#### 【整備管理コース】

○整備事業の管理、品質管理、技術管理、委託管理棟の知識と資格を持った専門的な職業人の養成を目指す。

#### 【空港マネジメントコース】

○空港の管理・運営／経営に関する知識を備えた専門的人材の養成を目指す。

本学では、既に平成 20 年には、ビジネスマネジメント学群アビエーション学類を開設、エアライン・ビジネスコース、エアライン・ホスピタリティコース、フライト・オペレーションコースを設置し、パイロットを含む多くの人材を航空業界に輩出してきた。こうした教育資源、実績及び経験を基軸に、フライト・オペレーションコースを分離して航空・マネジメント学群航空・マネジメント学類として設置する。本学群は、「フライト・オペレーション」、「航空管制」、「整備管理業務」、「空港マネジメント」の4つの専門領域による科目群で構成している。モジュール的な教育環境にすることで、1つの科目群を重点的に履修しながらも、将来の目標に応じて他の科目群も横断的に履修することができるシステムとなっており、本学群の名に相応しい「複合知」的付加価値と専門的知識及び技倆を修得させ、航空業界を支える人材を養成することができると確信している。

## **(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠**

### **①外部資料に基づく人材需要の見込み**

平成15年、小泉純一郎首相(当時)は「平成22年に訪日外国人を1,000万人にする」と観光立国を宣言、「ビジット・ジャパン・キャンペーン」が開始された。平成25年には当初目標の1,000万人達成、平成29年には2,869万人、平成30年には3,119万人(推計値)と増加の一途である(資料10)。平成30年には「明日の日本を支える観光ビジョン」が策定され、令和2年には4,000万人、令和12年には6,000万人の訪日外国数を目標設定しており、令和2年に開催される東京オリンピック・パラリンピック、令和7年に日本国際博覧会(大阪万博)等のビッグイベントが開催されることから、訪日外国人数の大幅な増加が見込まれている。

政府は、「観光」を成長戦略として位置づけ、航空政策が進められてきた。平成19年には、成長戦略の一つとして「アジア・ゲートウェイ構想」が策定され、アジア・オープンスカイ(航空自由化)を最重要課題とし、平成30年3月現在までに33の国・地域とオープンスカイを締結している。

また、平成22年に策定された「国土交通省成長戦略」では、「航空分野」と「観光分野」を優先的に実施すべき事項として位置づけ、平成25年には「交通基本法」が制定、平成26年に公表された交通政策審議会航空部会基本政策部会のとりまとめでは、①航空ネットワークの構築のための強固な基盤づくり、②充実した航空ネットワークの構築と需要の開拓、③質の高い航空・空港サービスの提供の三本柱について、中長期的に目指すべき方向が示された。さらに「未来投資戦略2018」においても「観光」は成長戦略の一つと位置付けられている。

こうした航空政策の推進を背景に、航空需要は増加傾向にある。国内航空旅客数は、平成22年の東日本大震災以降回復し、平成29年度には1億人を突破した(資料11)。

国内だけではなく、国際線の需要も増加しており、国際航空旅客数は平成28年度には9,555

万人となり過去最高を記録した（資料12）。

航空需要は世界的にみても増加しているといっても過言ではない状況にあり，世界の航空旅客数は，令和19年には，平成29年の2.4倍になると予測され，航空界の担い手の不足が懸念されている（資料13）。

「交通政策審議会航空分科会基本政策部会技術・安全部会乗員政策等検討合同小委員会とりまとめ」（以下「とりまとめ」）では，「増大する航空需要を支えるために不可欠な人材である操縦士（パイロット）の不足が深刻な課題となっている。特に，急速に事業を拡大しているLCC等や構造的に操縦士を確保することが困難な地域航空会社においては，操縦士，特に機長の確保が現実の深刻な課題となっている」と懸念が示された。すでにLCCでは，ピーチ・アビエーションが平成26年には国内外合わせて約2,000便，バニラ・エアが1ヶ月で約150便，AIRDOは26便を減便する事態となっている。航空会社の操縦士の年齢構成を見ると，40歳台が多く，令和12年頃から退職者が見込まれており，そのため「年間400人規模で新規操縦士の採用が必要となる事態が訪れると予測される」としている（資料14）（資料15）。

整備士についても，「とりまとめ」では，人員の不足が指摘された。「LCC等は，事業立ち上げ時にベテランの整備士を多く採用しており，今後退職者の増加が見込まれる。また，地域航空会社においても整備士の確保が困難となっており，これらの航空会社については，短期的に整備士不足に直面している」とし，「ICAOによれば，世界的な航空需要の増大に伴い，世界全体で整備士の需給が逼迫すると見込まれており，我が国においても，航空需要増大に伴い整備士の需要が増大すると考えられる」と述べられている。整備士は，我が国のMRO（整備・修理・オーバーホール）産業の技術水準の向上と維持，また旅客機MRJをはじめとする国産旅客機の競争力・価値を確保・向上に不可欠である（資料16）。

一方で，整備管理業務を担う人材の育成と確保も喫緊の課題である。航空各社等においては，これらの航空機等の整備を総合的に管理する側に立つ「整備管理業務」を担う人材が必要不可欠である。各航空会社には整備管理部門が設置されており，整備管理部といった名称の部署等が置かれている。また，LCCの参入等により，その需要は一層高まっているとともに，これらの業務を行うことができる人材の不足が近年目立ちつつある。現状，航空業界未経験者や航空各社の他部署等からの異動者で構成する等してカバーしようとしている状況にある。しかし，航空機体の知識の不十分さ等により現場の整備従事者とのコミュニケーションにおける共通認識不足もみられるようになっている。加えて，航空各社のみならず，航空機製造会社等の航空関連企業においても，将来的な航空機増等の需要に応えるためにも，これらの業務を遂行することができる人材は将来にわたって確保していかなければならない。故に，機体・エンジン・部品の信頼性の管理，技術管理，品質管理，部品供給管理，施設設備といった一連の管理業務を担うことができる人材を育成し，社会に一人でも多く輩出することは，至上命題の一つともいえよう（資料17）。

また，前述した航空旅客数の増加に伴い，航空管制取扱機数も増加傾向にある（資料18）。

航空交通流管理の面から見てみると、将来の見通しとしてはこれまでに述べたように総交通量は増加し続ける見込みであることが分かっている。これらの要因等も受けて、令和7年には出発待機による平均遅延時間は25分を超えると想定されている。国内線においてはダイヤ通りの運航が困難となり、機材繰りができなくなってやむなく欠航するケースも発生するという想定がされている（資料19）。このような状況にあつて、航空管制取扱機数は増加しているが、航空管制官の定員数は減少している（資料20）。航空保安大学校では、研修期間の短縮、採用回数を年2回から3回に増やす等、航空管制官採用の拡大に努めている。

一方、増加する航空需要に対応するべく、空港の経営改革が行われている。平成24年に公表された「空港運営のあり方に関する検討会」の報告書では、次の4つの原則、

- 1) 航空系事業と非航空系事業の経営一体化の推進
- 2) 民間の知恵と資金の導入とプロの経営者による空港経営の実現
- 3) 空港経営に関する意見の公募と地域の視点の取り込み
- 4) プロセス推進のための民間の専門的知識・経験の活用

が示され、これを受けて平成25年には「民活空港運営法」が施行された。平成27年に但馬空港、平成28年に仙台空港、関西・伊丹空港、平成30年に高松空港、神戸空港、平成31年には福岡空港が順次民営化された。平成28年の仙台空港の場合、「路線を増やし、航空需要を増やす」施策を行い、「2017年度事業報告」によれば、国内線旅客は315万8,000人（前年度比22万人増加）、国際線旅客は28万人（前年度比5万4,000人増加）、旅客数合計では34万8,000人（前年度比27万5,000人増加）となり、開港以来最高の旅客数を記録した。空港の民営化の推進により、新規就航路線の増加、また空港規模の拡張も予想され、空港運営会社では空港マネジメント人材需要の増加も予想される。

また、空港運営会社には海外展開も期待される。国土交通省が策定した「国土交通省インフラシステム海外展開行動計画2018」では、「空港分野については、2009年から2015年まで年間70億ドルの市場規模が2015年から2030年までには年間120億ドルの市場規模に増加する見込みである」とし、「空港の整備・運営を整備・運営整備・運営を一貫して担う空港会社も積極的に参画していくことが必要である」と述べられており、空港マネジメント人材は海外の空港の発展及び整備の部分においても需要増加が見込まれる。

本学が開設を予定している「航空・マネジメント学群航空・マネジメント学類」では、「フライト・オペレーションコース」「航空管制コース」「整備管理コース」「空港マネジメントコース」を設ける予定であり、前述の通り、人材需要増加が見込まれる航空分野では、本学が養成する人材が求められている。従って、本学群開設に伴う収容定員の増員は、社会的・地域的な人材需要の要請に応え得ると判断している。

## ②ビジネスマネジメント学群の就職実績

本学「ビジネスマネジメント学群」には、「アビエーションマネジメント学類」を設置しており、幅広い仕事を志望する人のためのエアライン・ビジネスコース、キャビンアテンダントやグランドスタッフをめざすエアライン・ホスピタリティコース、パイロットを養成するフライト・オペレーションコースがあり、航空や輸送に携わる「空のプロフェッショナル」を養成している。学群ごとには就職実績を公表していないため、「ビジネスマネジメント学群」の就職実績を示す。

平成 29 年度の就職希望者に対する就職者数の比率は、97.9%であり、そのうち 10.7%が輸送分野（航空含む）に就職している（資料 21）（資料 22）。

また、フライト・オペレーションコースでは、パイロットとして、航空会社と本学間における推薦制度も用意している。現在、日本航空株式会社、株式会社AIRDO、ANA ウイングス株式会社、スカイマーク株式会社、Peach Aviation 株式会社、株式会社スターフライヤー、株式会社ソラシドエア、株式会社フジドリームエアラインズ、バニラ・エア株式会社との間に推薦制度があり、本学群に移行したのちもこの制度は継続する。

本学群についても航空業界を中心とした就職者を送り出すことになるが、航空業界以外への就職希望者も当然ながらいることは想定している。このため、キャリア開発センターと連携し、幅広く社会へ送り出すことができるように整備しているとともに、パイロットや航空管制官として専門的に活躍する職種へのサポートも、これまでの就職支援体制を継続かつ発展させていくようにする。



## 資料目次

資料番号	資料名
資料1	高校生アンケート調査報告書
資料2	私立大学の観光学部、国際学部の志願動向
資料3	私立大学・航空操縦学分野の募集状況
資料4	私立大学・航空操縦学分野の充足状況
資料5	近隣の観光系学部の募集状況（一般選抜のみ）
資料6	近隣の国際系学部の募集状況（一般選抜のみ）
資料7	18歳人口の将来推計
資料8	私立大学・航空操縦学分野の学費一覧
資料9	近隣の観光系、国際系学部の学費一覧
資料10	ビジット・ジャパン事業開始以降の訪日客数の推移
資料11	国内航空旅客数の推移
資料12	国際線航空旅客数の推移
資料13	世界の航空旅客予測
資料14	操縦士の年齢構成
資料15	我が国の操縦士の需要予測
資料16	国際的な整備士の需要見通し
資料17	整備管理スタッフの育成における課題
資料18	航空取扱機数（管制）の推移
資料19	航空交通流管理（ATFM）
資料20	航空管制延べ取扱機数と航空管制官等定員の推移
資料21	桜美林大学ビジネスマネジメント学群の就職実績
資料22	桜美林大学ビジネスマネジメント学群卒業生の進路

桜美林大学「航空・マネジメント学群（仮称）」  
設置構想についての高校生アンケート調査  
報告書

平成 31 年 2 月

株式会社高等教育総合研究所

# 目次

1	調査の概要	1
2	全質問項目の集計結果	3
3	集計結果のポイント	7

## 添付資料

「桜美林大学 航空・マネジメント学群（仮称）設置構想についての高校生アンケート調査」用紙

## 1 調査の概要

- ◆調査の目的：本調査は、桜美林大学が平成32年4月設置に向けて構想中の「航空・マネジメント学群（仮称）」の学生確保の見通しを、大学外の公正な第三者機関によりアンケートを用いて測ることを目的とする。
- ◆調査期間：平成30年12～平成31年2月
- ◆調査対象：平成32年度の大学入試を受験する可能性が最も高い、平成30年度の高校2年生をアンケートの対象とした。
- ◆調査方法：南関東圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）に所在する普通科の高等学校937校に加え、北関東圏（茨城県、栃木県、群馬県）や関東周辺各県（福島県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、静岡県）の大学進学率が高い高等学校180校、合計1,117校に実施を依頼。実施の承認が得られた132校にアンケートを送付。各校の教員が調査対象である高校2年生にアンケート用紙を配布の上、回答後その場で回収した。依頼対象校の内訳は以下の通り。

都県	国公立	私立	合計
福島県	14校	2校	16校
茨城県	15校	14校	29校
栃木県	9校	8校	17校
群馬県	13校	6校	19校
埼玉県	107校	45校	152校
千葉県	120校	60校	180校
東京都	161校	232校	393校
神奈川県	128校	84校	212校
新潟県	16校	3校	19校
富山県	8校	0校	8校
石川県	7校	3校	10校
福井県	4校	2校	6校
山梨県	6校	3校	9校
長野県	15校	5校	20校
静岡県	18校	9校	27校
<b>合計</b>	<b>641校</b>	<b>476校</b>	<b>1,117校</b>

◆調査内容：アンケート項目は全9問で、全て選択肢式とした。

主な質問内容は、以下の通りである。

『回答者の基本情報（性別・居住地）について』

『回答者の高校卒業後の希望進路について』

『桜美林大学「航空・マネジメント学群（仮称）」への受験・入学意欲について』

◆実施校：132校（実施率 11.8% / 依頼数 1,117校）

◆有効件数：16,375件（回収件数 16,409件 / 有効件数率 99.8%）

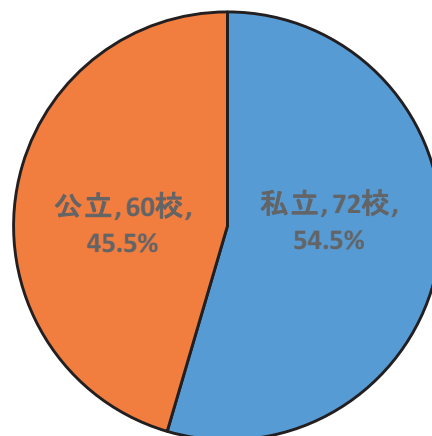
※問1（居住地）と問2（性別）のいずれかの回答が無回答であったものは、無効回答とした。

◆実施高校：本アンケートに協力いただいた132校の詳細は以下の通り。

1. 都道府県別の実施高校数

都道府県	公立	私立	合計	割合
福島県	3校	1校	4校	3.0%
茨城県	0校	2校	2校	1.5%
栃木県	0校	1校	1校	0.8%
群馬県	1校	2校	3校	2.3%
埼玉県	5校	7校	12校	9.1%
千葉県	5校	8校	13校	9.8%
東京都	17校	30校	47校	35.6%
神奈川県	27校	18校	45校	34.1%
石川県	0校	1校	1校	0.8%
山梨県	1校	0校	1校	0.8%
長野県	1校	0校	1校	0.8%
静岡県	0校	2校	2校	1.5%
<b>合計</b>	<b>60校</b>	<b>72校</b>	<b>132校</b>	<b>100.0%</b>
<b>割合</b>	<b>45.5%</b>	<b>54.5%</b>	<b>100.0%</b>	

2. 設置者別の実施高校数



## 2 全質問項目の集計結果

※「構成比」(%) はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0% と一致しない。

3～6 ページは、アンケートで回答を得た 16,375 人の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

### 問1 あなたが現在お住いの都道府県をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	東京都	4,889	29.9%
2	神奈川県	6,725	41.1%
3	埼玉県	1,225	7.5%
4	千葉県	1,782	10.9%
5	茨城県	395	2.4%
6	栃木県	143	0.9%
7	群馬県	417	2.5%
8	福島県	154	0.9%
9	新潟県	5	0.0%
10	富山県	8	0.0%
11	石川県	403	2.5%
12	福井県	5	0.0%
13	山梨県	45	0.3%
14	長野県	81	0.5%
15	静岡県	81	0.5%
16	その他	17	0.1%
	計	16,375	100.0%

### 問2 あなたの性別をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	男性	7,306	44.6%
2	女性	9,069	55.4%
	計	16,375	100.0%

**問3 高校卒業後の希望進路についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)**

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者 16,375 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	大学	12,606	77.0%
2	短期大学	1,046	6.4%
3	専門学校	3,247	19.8%
4	就職	995	6.1%
5	その他	264	1.6%
	無回答	72	0.4%

**問4 あなたが好きな教科についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)**

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者 16,375 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	国語	4,436	27.1%
2	地理歴史	3,829	23.4%
3	公民	1,180	7.2%
4	英語	3,889	23.7%
5	数学	4,195	25.6%
6	理科	2,348	14.3%
	無回答	633	3.9%

**問5 あなたの英語への学習意欲についてお答えください。(あてはまるもの1つに○)**

番号	選択項目	回答数	構成比
1	得意であり、これからも向上させたい	2,292	14.0%
2	得意ではないが、これから学びたい	10,146	62.0%
3	苦手であり、学びたくない	3,675	22.4%
	無回答	262	1.6%
	計	16,375	100.0%

問6 あなたは桜美林大学の「航空・マネジメント学群(仮称)」を受験したいと思いますか。  
(あてはまるもの1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	受験したい	917	5.6%
2	受験しない	15,193	92.8%
	無回答	265	1.6%
	計	16,375	100.0%

以下の問7、問8は、問6で「1. 受験したい」を選択した 917 人が回答対象である。

問7 桜美林大学の「航空・マネジメント学群(仮称)」では、4つのコースが配置されています。あなたが興味があるコースをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者 917 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	フライト・オペレーションコース	360	39.3%
2	航空管制コース	259	28.2%
3	整備管理コース	150	16.4%
4	空港マネジメントコース	372	40.6%
	無回答	38	4.1%

問8 あなたは桜美林大学の「航空・マネジメント学群(仮称)」に合格した場合、入学したいですか。  
(あてはまるもの1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	合格した場合、入学したい	479	52.2%
2	合格した場合、併願大学の結果によっては入学したい	419	45.7%
	無回答	19	2.1%
	計	917	100.0%



以下の問9は、問6で「2. 受験しない」を選択した 15,193 人が回答対象である。

**問9 あなたは桜美林大学の「航空・マネジメント学群(仮称)」を「受験しない」とされた理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)**

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者 15,193 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	興味・関心のある分野ではないから	12,252	80.6%
2	興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから	1,480	9.7%
3	興味・関心のある分野だが、更に詳細を知った上で検討したいから	599	3.9%
4	卒業後の進路として、大学への進学を考えていないから	1,022	6.7%
5	通学が不便そうだから	957	6.3%
6	学費が高いから	1,217	8.0%
7	その他	333	2.2%
	無回答	312	2.1%

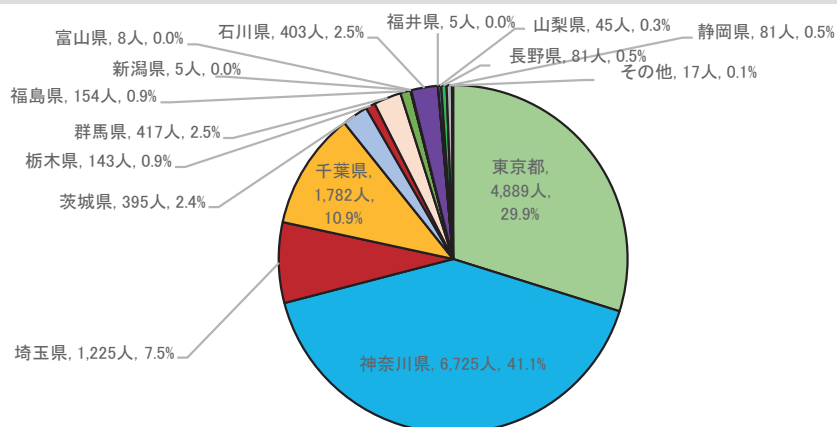
### 3 集計結果のポイント

※「構成比」(%) はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0% と一致しない。

#### ● 回答者の 7 割が東京都、神奈川県に居住。

回答者 16,375 人のうち、東京都に 4,889 人 (29.9%)、神奈川県に 6,725 人 (41.1%)、関東エリア (千葉県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県) に 3,962 人 (24.2%)、その他に 799 人 (4.9%) が居住していると回答した。「航空・マネジメント学群 (仮称)」のキャンパスは東京都多摩市となるが、自宅からの通学が現実的に可能と考えられる東京都と神奈川県に居住している回答者の合計は 11,614 人 (70.9%) となっており、実際の募集を想定した地域にて実施していることから、調査結果の適性は十分に担保しているといえる。

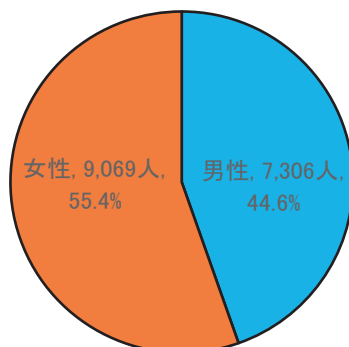
グラフ 回答者の居住地 (「問1」結果より)



#### ● 回答者の男女比はほぼ同数。

回答者 16,375 人のうち、男性は 7,306 人 (44.6%)、女性は 9,069 人 (55.4%) であった。

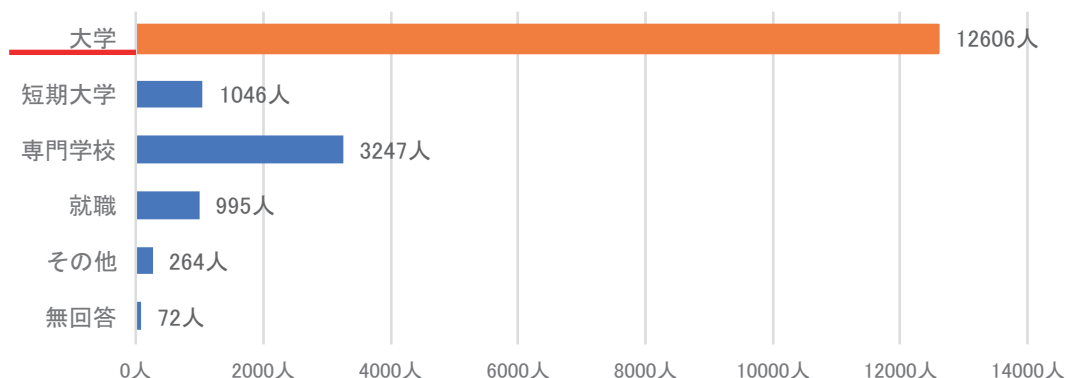
グラフ 回答者の性別 (「問2」結果より)



● 回答者の約 8 割が、高校卒業の進路として大学進学を希望。

回答者 16,375 人のうち、77.0%にあたる 12,606 人が高校卒業後の進路として「大学」を選択しており、他の選択肢と比較して圧倒的に多い回答数となった（複数回答の結果）。

グラフ 高校卒業後の希望進路（「問 3」結果より）※複数回答の結果

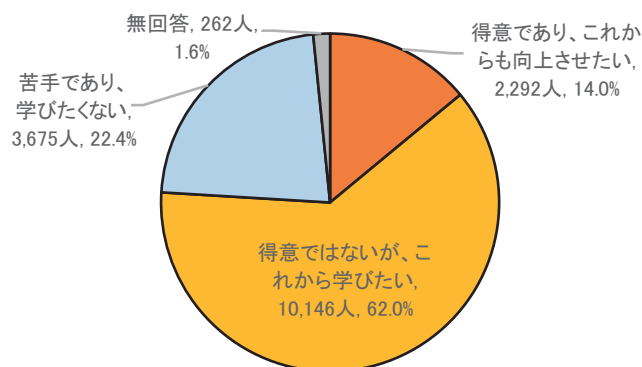


● 回答者の約 8 割が、英語の学習について意欲を示す。

回答者 16,375 人のうち、英語の学習について、14.0%にあたる 2,292 人が「得意であり、これからも向上させたい」、62.0%にあたる 10,146 人が「得意ではないが、これから学びたい」と回答しており、合計で 76.0%にあたる 12,438 人が意欲を示した。

桜美林大学「航空・マネジメント学群（仮称）」の特色として、英語学習が挙げられるが、回答者の多くが、英語の学習について意欲を示していることがわかった。

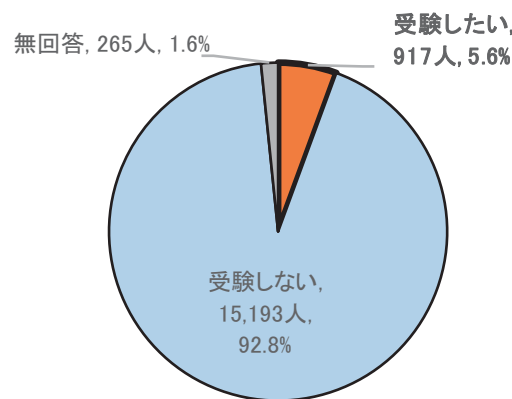
グラフ 英語への学習意欲（「問 5」結果より）



● 917人が桜美林大学の「航空・マネジメント学群（仮称）」を「受験したい」と回答。

回答者 16,375 人のうち 5.6%にあたる 917 人が、桜美林大学の「航空・マネジメント学群（仮称）」を「受験したい」と回答した。同学群は入学定員を 140 人で予定しており、6.6 倍の高校生より受験意欲を示す回答が得られた。

グラフ 桜美林大学「航空・マネジメント学群（仮称）」への受験意欲（「問6」結果より）



● 479人が桜美林大学の「航空・マネジメント学群（仮称）」に「入学したい」と回答。

桜美林大学の「航空・マネジメント学群（仮称）」を「受験したい」と回答した 917 人に対し、合格した場合の入学意欲について質問した結果、予定する入学定員 140 人の 3.4 倍となる 479 人が「入学したい」と回答、419 人が「併願大学の結果によっては入学したい」と回答した。

また、「入学したい」および「併願大学の結果によっては入学したい」の各回答と、問 1 の居住地における回答をクロス集計したところ、「入学したい」と回答した 479 人のうち、378 人が「東京都」、「神奈川県」に居住している高校生であり、桜美林大学にもっとも通学しやすい地域に居住している高校生の入学意欲のみでも、予定する定員 140 人を上回る結果となった。

グラフ 「航空・マネジメント学群（仮称）」への受験・入学意欲（「問6」「問8」結果より）

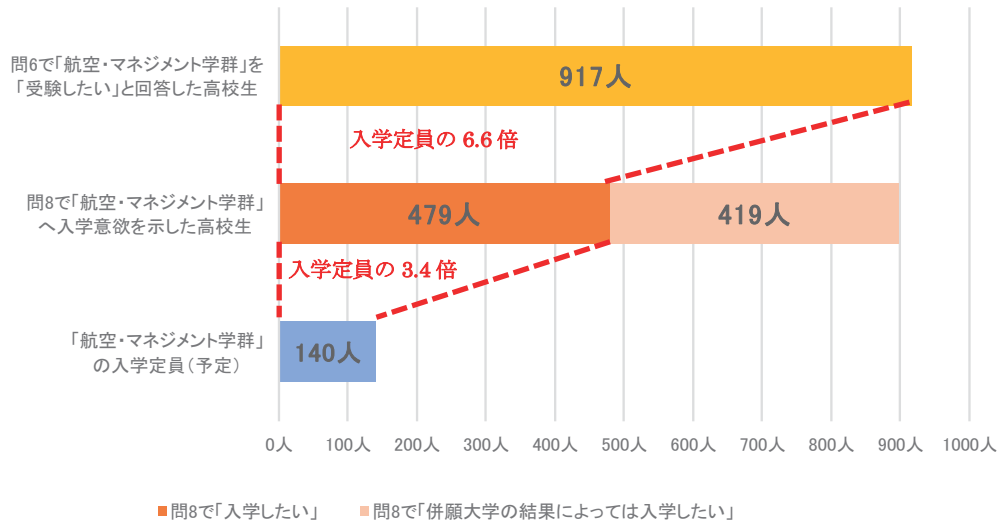


表 【所在地別】「航空・マネジメント学群（仮称）」への入学意欲（「問1」「問8」結果より）

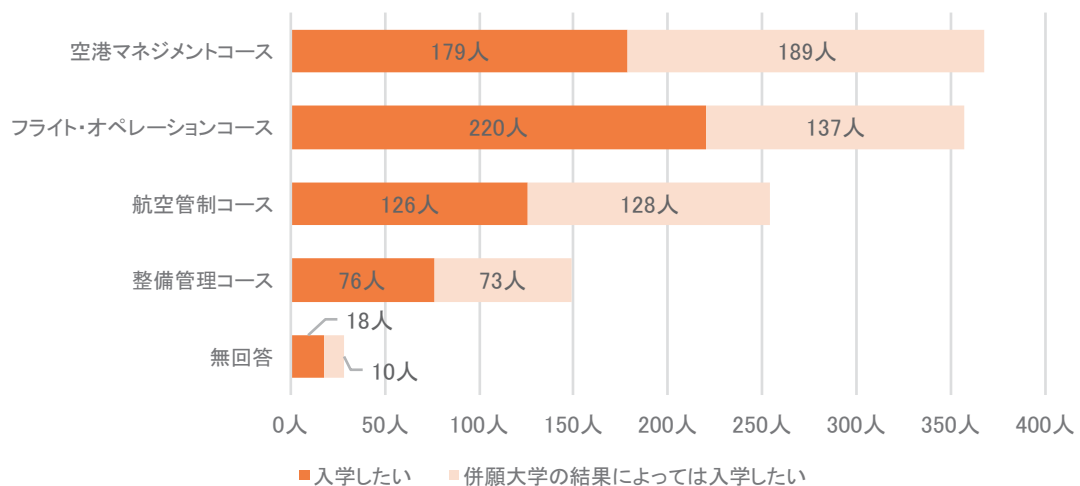
所在地	入学したい		併願大学の結果によっては入学したい	
	回答数	構成比	回答数	構成比
東京都	189	39.5%	127	30.3%
神奈川県	189	39.5%	178	42.5%
埼玉県	22	4.6%	31	7.4%
千葉県	38	7.9%	43	10.3%
茨城県	6	1.3%	7	1.7%
栃木県	4	0.8%	4	1.0%
群馬県	6	1.3%	13	3.1%
福島県	8	1.7%	4	1.0%
新潟県	4	0.8%	0	0.0%
富山県	2	0.4%	0	0.0%
石川県	4	0.8%	4	1.0%
福井県	0	0.0%	1	0.2%
山梨県	2	0.4%	0	0.0%
長野県	1	0.2%	4	1.0%
静岡県	3	0.6%	3	0.7%
その他	1	0.2%	0	0.0%
合計	479	100.0%	419	100.0%

● 入学意欲を示した4割が、「空港マネジメントコース」と「フライト・オペレーションコース」に興味を示す。

桜美林大学の「航空・マネジメント学群（仮称）」を受験したいと回答した 917 人に対し、興味のあるコースについて質問したところ、「空港マネジメントコース」（372 人、44.1%）と「フライト・オペレーションコース」（360 人、42.7%）への回答が目立った（複数回答の結果）。

また、下記のグラフの通り入学意欲別でクロス集計を行った結果、いずれのコースにも一定の回答があったが、特に「フライト・オペレーションコース」には 220 人が回答しており、もっとも多い結果となった。

グラフ 【入学意欲別】興味があるコース（「問7」「問8」結果より）



● 599 人が「更に詳細を知った上で検討したいから」と回答。

桜美林大学の「航空・マネジメント学群（仮称）」を受験しないと回答した 15,193 人にその理由を質問したところ、80.6%にあたる 12,252 人が「興味・関心のある分野ではないから」と回答し、もっとも多い回答であった。各選択項目の中で、「興味・関心のある分野だが、更に詳細を知った上で検討したいから」には 3.9%にあたる 599 人が回答している（複数回答の結果）。

表 「航空・マネジメント学群（仮称）」に受験しない理由（「問9」結果より）※複数回答の結果、回答の多い順

選択項目	回答数	構成比
興味・関心のある分野ではないから	12,252	80.6%
興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから	1,480	9.7%
学費が高いから	1,217	8.0%
興味・関心のある分野だが、大学への進学を考えていないから	1,022	6.7%
通学が不便そうだから	957	6.3%
興味・関心のある分野だが、更に詳細を知った上で検討したいから	599	3.9%
その他	333	2.2%
無回答	312	2.1%

以上の結果より、桜美林大学が平成32年4月に設置構想中である「航空・マネジメント学群（仮称）」の学生確保の見通しは、予定する入学定員を上回る入学意欲を得たため、入学定員の確保は十分に可能であると判断できる。

## 添付資料

「桜美林大学 航空・マネジメント学群（仮称）設置構想についての高校生アンケート調査」用紙



2020(平成32)年4月に

設置構想中

※ 構想中のため、変更となる場合があります。

### 設置構想についての高校生アンケート調査

(対象: 2018(平成30)年度現在、高校2年生の皆さん)

桜美林大学は2020(平成32)年4月、航空・マネジメント学群の設置を構想しています。

本学ではこのアンケート調査を通して、2020(平成32)年に大学進学時期を迎える現・高校2年生の皆さんからさまざまなご意見をお聞きし、構想内容に少しでも反映したいと考えています。

なお、回答いただいた皆さんから得られた情報は、航空・マネジメント学群の設置に係る統計資料および、文部科学省への提出書類として活用いたします。高校生の皆さんのアンケート調査へのご協力を、よろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は桜美林大学から委託された第三者機関(株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

**問1** あなたが現在お住まいの都道府県をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

- |         |         |         |            |
|---------|---------|---------|------------|
| 1. 東京都  | 2. 神奈川県 | 3. 埼玉県  | 4. 千葉県     |
| 5. 茨城県  | 6. 栃木県  | 7. 群馬県  | 8. 福島県     |
| 9. 新潟県  | 10. 富山県 | 11. 石川県 | 12. 福井県    |
| 13. 山梨県 | 14. 長野県 | 15. 静岡県 | 16. その他( ) |

**問2** あなたの性別をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

**問3** 高校卒業後の希望進路についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- |       |           |         |
|-------|-----------|---------|
| 1. 大学 | 2. 短期大学   | 3. 専門学校 |
| 4. 就職 | 5. その他( ) |         |

**問4** あなたが好きな教科についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- |       |         |       |
|-------|---------|-------|
| 1. 国語 | 2. 地理歴史 | 3. 公民 |
| 4. 英語 | 5. 数学   | 6. 理科 |

**問5** あなたの英語への学習意欲についてお答えください。(あてはまるもの1つに○)

- |                      |
|----------------------|
| 1. 得意であり、これからも向上させたい |
| 2. 得意ではないが、これから学びたい  |
| 3. 苦手であり、学びたくない      |

高度な専門性と卓越した英語力を備えた、航空各分野で活躍するジェネラリストを育成。

# 航空・マネジメント学群

設置構想中

学群の概要

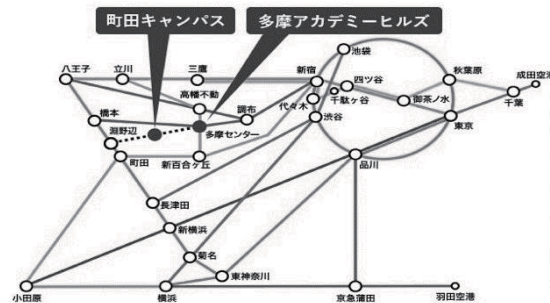
対象時期：2020(平成32)年4月  
 開設場所：東京都多摩市落合2-31-1  
 修業年限：4年  
 入学定員：140人  
 ※入学の際は、英検2級相当の英語力が必要です。

養成する人材

桜美林大学の航空・マネジメント学群では、卓越した英語力を有し、経済学、法学の学問分野に裏打ちされた専門性の高い確かな知識と航空の基礎となる必須の知識と技術を併せ持った航空の各分野で活躍する人材を養成します。

アクセス

<多摩アカデミーヒルズで学びます。アクセスは以下の通りです。>  
 京王線・小田急線・多摩モノレール線「多摩センター」駅より徒歩10分

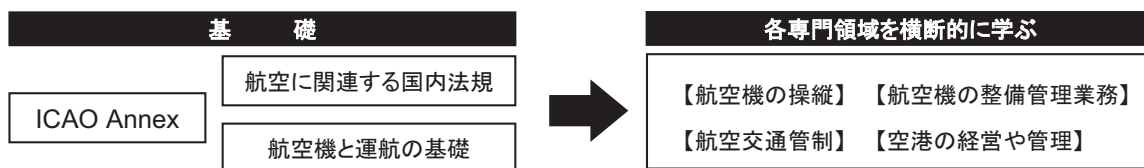


学群の特色

## ◇ 航空界の様々な分野を横断的に学べる教育体制を整えています。

航空業界の知識の根幹となる航空憲法とも呼ばれる世界標準「ICAO Annex」を理解するとともに、航空に関連する国内法規、航空の基盤となる航空機と運航の基礎を学びます。

その後は、目指したい分野に応じて【航空機の操縦】、【航空交通管制】、【航空機の整備管理業務】、【空港の経営及び管理】といった、専門性の高い分野を横断的に学びます。なお、航空の各分野に関連した様々な資格の取得(詳細は右ページ)も目指します。



## ◇ 徹底した英語学習を行い、卓越した英語力を身につけます。

航空業界で活躍する人材には、専門知識に加え、英語によるスムーズなコミュニケーションが必要とされます。さらに、航空の各分野において専門的に使用する英語も求められます。

本学群では、入学以降、ほぼ毎日英語の授業を行うことで、卒業時には卓越した英語力を修得することができます。

また、【航空機の操縦】を専門的に学びたい方は約1年半の海外キャンパスでの訓練や授業、【航空交通管制】、【航空機の整備管理業務】、【空港の経営や管理】を専門的に学びたい方は、2年次の後半の約4ヶ月間の海外留学が必須となっており、語学の修得のみならず、海外において航空各分野の専門的知識をさらに高める学びを行います。

初年度学費(他大学を含む)

大学名・学部名・学科名 所在地	入学金	授業料	実験実習費	教育充実費等 (諸会費は除く)	その他	初年度学費 (円)
本学 航空・マネジメント学群 航空・マネジメント学類						
フライト・オペレーションコースのみ	100,000	1,204,000	1,200,000	50,000	300,000	2,854,000
その他3コース	100,000	1,204,000	—	50,000	300,000	1,654,000
東海大学 工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻 神奈川県平塚市	300,000	855,000	—	500,000	250,000	1,905,000
法政大学 理工学部機械工学科航空操縦学専修 東京都小金井市	240,000	1,144,000	486,000	312,000	—	2,182,000
東海大学 観光学部観光学科 神奈川県平塚市、(2年次以降は東京都渋谷区)	300,000	770,000	—	157,000	250,000	1,477,000
玉川大学 観光学部観光学科 東京都町田市	250,000	1,014,000	—	205,200	234,000	1,703,200

※桜美林大学航空・マネジメント学群の学費は2020年度予定です。  
 ※他大学の各学部・学科の学費は各大学ホームページ掲載情報に基づきます(2018年11月時点)。  
 ※その他、諸会費が必要な場合があります。

※上記の概要は構想中のものであり、変更となる場合があります。

## 【フライト・オペレーションコース】（※1）

### 《学ぶ内容》

エアラインパイロット、航空局の試験官などの経歴を持つ経験豊富な教員の下、航空機の運航に必要な知識、判断力、コミュニケーション能力のみならず、航空機の安全運航に不可欠なエアマンシップとマネジement能力を養います。また、一部の講義科目と操縦の実技は、米国にある桜美林大学フライト・トレーニングセンターで履修します。

### 《取得可能な国家資格》 ※それぞれ日本、米国の資格

- ・航空無線通信士
- ・自家用操縦士
- ・事業用操縦士技能証明
- ・計器飛行証明
- ・事業用操縦士(飛行機、陸上単発機、陸上多発機)

### 《想定される進路》

「航空無線通信士」のほか、日米両国の操縦士資格、計器飛行証明などの資格を取得し、エアラインパイロットとして活躍することを想定しています。

#### 進路例

- エアライン各社
- 航空機使用事業会社
- 報道機関
- 消防・警察
- 官公庁
- ほか

## 【航空管制コース】

### 《学ぶ内容》

空の安全を守る航空管制官の仕事です。航空機間の安全な間隔設定だけでなく、本学群で学ぶ航空機の性能や航空機賞といった専門知識も学びます。最短ルート、最適高度を英語で指示し、効率的なコントロールによって経営を助け、環境負荷なども配慮できる管制官要員を育成します。

### 《取得可能な国家資格》

- ・航空無線通信士
- ・国家公務員航空管制官

### 《想定される進路》

4年次春に航空管制官採用試験を受験、卒業後は航空保安大学校に入校。8ヶ月の研修を経て、航空管制官として全国各地の空港などで活躍することを想定しています。

#### 進路例

- 国土交通省(航空管制官)
- エアライン各社
- 航空機使用事業会社
- 空港管理運営会社
- 消防、警察
- ほか

## 【整備管理コース】

### 《学ぶ内容》

整備管理業務はいわゆる整備作業ではありません。航空機の安全運航を支える機体・エンジン・部品整備の信頼性管理、技術管理、品質管理、生産管理、部品補給管理、施設設備管理といった一連の管理業務を行うのが仕事です。航空に関する各分野の基礎知識をはじめ、航空会社やボーイング社での現場研修なども経験し、整備管理業務のプロフェッショナルを育成します。

### 《取得可能な国家資格》

- ・航空無線通信士
- ・甲種危険物取扱者
- ・第二種放射線取扱主任者

### 《想定される進路》

整備管理業務に必要な「航空無線通信士」「甲種危険物取扱者」「第二種放射線取扱主任者」などの資格取得を目指し、エアラインの整備管理部門や航空機整備会社で活躍することを想定しています。

#### 進路例

- エアライン各社
- 航空機整備部品整備会社
- 航空機整備部品製造会社
- 総合商社
- 官公庁
- ほか

## 【空港マネジメントコース】

### 《学ぶ内容》

国は空港の所有権を残したまま、その運営を民間会社に任せる方針を固め、全国100余りの空港の「民営化」が始まりました。民営化により巨大インフラである空港を運営するだけでなく、空港を利用した新たなビジネスが生まれます。空港の社会的役割、規模、施設と機能、アクセス、空港及び地域社会の経済、空港のマネジメントを学び、将来の空港運営・経営に必要な人材を育成します。

### 《取得可能な国家資格》

- ・航空無線通信士

### 《想定される進路》

民営化された空港の航空系部門と非航空系部門を合わせた総合的な空港の管理、運営に携わり、空港経営の一翼を担う人材として活躍することを想定しています。

#### 進路例

- 空港株式会社
- 空港コンサルタント会社
- 空港民営化コンソーシアム参加企業
- 空港ビルディング管理運営会社
- 空港運営管理関連企業
- 官公庁
- ほか

\* 上記各コースのうち、1つのコースを重点的に学びますが、他の領域のコースも同時に学んでいくことで、将来、航空業界を担うジェネラリストとしての知識や素養を身につけます。

(※1)「フライト・オペレーションコース」を重点的に履修し、操縦士免許の取得を希望する受験生は、他のコースと試験内容が異なります。

※ 上記の概要は構想中のものであり、変更となる場合があります。

上記をご覧の上、4ページの質問にお答えください。

問6

あなたは桜美林大学の「航空・マネジメント学群（仮称）」を受験したいと思いますか。  
（あてはまるもの1つに○）

1. 受験したい → 1の方は 問7・問8 にお答えください。
2. 受験しない → 2の方は 問9 にお答えください。

以下の問7・問8は、問6で「1. 受験したい」と回答した方がお答えください。

問7

桜美林大学の「航空・マネジメント学群（仮称）」では、4つのコースが配置されています。  
あなたが興味があるコースをお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1. フライト・オペレーションコース
2. 航空管制コース
3. 整備管理コース
4. 空港マネジメントコース

問8

あなたは桜美林大学の「航空・マネジメント学群（仮称）」に合格した場合、入学したいですか。  
（あてはまるもの1つに○）

1. 合格した場合、入学したい
2. 合格した場合、併願大学の結果によっては入学したい

以下の問9は、問6で「2. 受験しない」と回答した方がお答えください。

問9

あなたは桜美林大学の「航空・マネジメント学群（仮称）」を「受験しない」とされた理由をお答えください。  
（あてはまるものすべてに○）

1. 興味・関心のある分野ではないから
2. 興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから
3. 興味・関心のある分野だが、更に詳細を知った上で検討したいから
4. 卒業後の進路として、大学への進学を考えていないから
5. 通学が不便そうだから
6. 学費が高いから
7. その他、理由があればお書きください。

{ }

質問は以上となります。ご協力いただきありがとうございました。

## 資料2: 私立大学の観光学部、国際学部の志願動向

年度	学部名	学部数	入学定員 (A)	志願者 (B)	入学者 (E)	志願倍率 (B/A)	充足率 (E/A)
2014年度 (平成26年度)	観光学部	6	1,005	7,330	941	7.3	93.6%
	国際観光学部	—	—	—	—	—	—
	国際学部	10	2,185	11,336	2,286	5.2	104.6%
	上記3学部合計	16	3,190	18,666	3,227	5.9	101.2%
2015年度 (平成27年度)	観光学部	6	1,005	7,316	1,016	7.3	101.1%
	国際観光学部	—	—	—	—	—	—
	国際学部	11	2,645	16,937	2,906	6.4	109.9%
	上記3学部合計	17	3,650	24,253	3,922	6.6	107.5%
2016年度 (平成28年度)	観光学部	6	1,005	7,285	983	7.2	97.8%
	国際観光学部	—	—	—	—	—	—
	国際学部	13	3,285	23,860	3,262	7.3	99.3%
	上記3学部合計	19	4,290	31,145	4,245	7.3	99.0%
2017年度 (平成29年度)	観光学部	6	1,030	7,441	1,048	7.2	101.7%
	国際観光学部	3	611	7,040	651	11.5	106.5%
	国際学部	15	4,005	38,140	4,369	9.5	109.1%
	上記3学部合計	24	5,646	52,621	6,068	9.3	107.5%
2018年度 (平成30年度)	観光学部	6	1,030	9,501	993	9.2	96.4%
	国際観光学部	3	611	6,793	651	11.1	106.5%
	国際学部	16	4,139	38,328	4,342	9.3	104.9%
	上記3学部合計	25	5,780	54,622	5,986	9.5	103.6%

出典: 日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」平成26年～平成30年より抽出

資料3:私立大学・航空操縦学分野の募集状況

大学	学部	学科	所在地	入学定員 (2018年)	平成26(2014)年度				平成27(2015)年度				平成28(2016)年度				平成29(2017)年度				平成30(2018)年度				備考
					志願者	受験者	合格者	倍率	志願者	受験者	合格者	倍率	志願者	受験者	合格者	倍率	志願者	受験者	合格者	倍率	志願者	受験者	合格者	倍率	
千葉科学	危機管理	航空技術危機管理 -パイロットコース	千葉県銚子市	40	37	35	16	2.19	52	51	26	1.96	35	35	24	1.46	10	9	9	1.00	26	25	22	1.14	※学科全 体の数値
法政	理工	機械工学 -航空操縦学専攻	東京都小金井市	30	39	38	15	2.53	71	71	27	2.63	76	74	29	2.55	88	86	27	3.19	103	102	21	4.86	
東海	工	航空宇宙 -航空操縦学専攻	神奈川県平塚市	50	102	102	38	2.68	125	125	40	3.13	146	146	38	3.84	164	164	47	3.49	160	160	40	4.00	
崇城	工	航空宇宙システム工 -航空操縦学専攻	熊本県熊本市	20	39	39	20	1.95	137	135	36	3.75	116	115	19	6.05	133	130	20	6.50	79	73	34	2.15	
第一工業	工	航空工 -パイロット資格コース	鹿児島県霧島市	60	非				非				非				非				非				
合計				200	217	214	89	2.40	385	382	129	2.96	373	370	110	3.36	395	389	103	3.78	368	360	117	3.08	

※志願者・受験者・合格者は一般選抜(一般入試とセンター試験併用入試に合計)。入学定員は全入試制度の合計。

出典:旺文社「蜚雪時代臨時増刊・全国大学内容案内(平成26年8月号～平成30年8月号)」

#### 資料4:私立大学・航空操縦学分野の充足状況

大学	学部	学科	所在地	入学状況			在籍状況			データ年月	備考
				入学定員	入学者	充足率	収容定員	在籍者	充足率		
千葉科学	危機管理	航空技術危機管理	千葉県銚子市	40	13	32.50%	160	44	27.50%	平成30年5月1日時点	学科全体の数値
法政	理工	機械工学	東京都小金井市	143	151	105.59%	572	588	102.80%	平成30年5月1日時点	学科全体の数値
東海	工	航空宇宙 -航空操縦学専攻	神奈川県平塚市	50	48	96.00%	200	197	98.50%	平成30年5月1日時点	
崇城	工	航空宇宙システム工	熊本県熊本市	260	302	116.15%	1040	1240	119.23%	平成30年5月1日時点	学部全体の数値

出典:各大学のHP

資料5:近隣の観光系学部の募集状況(一般選抜のみ)

大学	学部	学科	所在地	入学定員 (2018年)	平成26(2014)年度				平成27(2015)年度				平成28(2016)年度				平成29(2017)年度				平成30(2018)年度				備考
					志願者	受験者	合格者	倍率	志願者	受験者	合格者	倍率	志願者	受験者	合格者	倍率	志願者	受験者	合格者	倍率	志願者	受験者	合格者	倍率	
跡見学園女子	観光コミュニ	観光デザイン	1・2年:新座 3・4年:文京区	120	224	217	134	1.62	240	216	178	1.21	295	283	256	1.11	321	314	176	1.78	449	441	181	2.44	学科全体の 数値
亜細亜	経営	ホスピタリティ・マネジメント	東京都武蔵野市	150	713	708	171	4.14	716	708	137	5.17	891	878	200	4.39	782	753	142	5.30	786	767	144	5.33	
杏林	外国語	観光交流文化	東京都八王子市	80	169	167	117	1.43	277	267	75	3.56	360	351	97	3.62	627	619	161	3.84	665	643	145	4.43	
駒沢女子	人間総合学	観光文化学類	東京都稲城市	60																	89	89	75	1.19	
玉川	観光	観光	東京都町田市	90	614	595	160	3.72	561	541	217	2.49	622	600	213	2.82	631	617	197	3.13	648	636	86	7.40	
帝京	経済	観光経営	東京都八王子市	170	430	421	276	1.53	470	458	243	1.88	284	272	202	1.35	446	427	210	2.03	499	491	225	2.18	
帝京平成	現代ライフ	観光経営	東京都中野区	98	130	123	59	2.08	131	123	96	1.28	151	149	101	1.48	170	165	83	1.99	143	137	47	2.91	
東洋	国際観光	国際観光	東京都文京区	366	3,952	3,875	648	5.98	3,814	3,814	763	5.00	4,167	4,167	809	5.15	5,741	5,741	919	6.25	5,470	5,470	648	8.44	
東海	観光	観光	神奈川県平塚市	200	1,016	987	225	4.39	1,027	993	225	4.41	1,198	1,159	250	4.64	1,601	1,559	258	6.04	1,557	1,513	241	6.28	
松蔭	観光メディア	観光文化	神奈川県厚木市	48	非				非				非				非			非					
横浜商科	商	観光マネジメント	神奈川県横浜市	70	22	18	17	1.06	37	35	29	1.21	48	46	43	1.07	51	45	30	1.50	69	66	22	3.00	
合計					7,270	7,111	1,807	3.94	7,273	7,155	1,963	3.64	8,016	7,905	2,171	3.64	10,370	10,240	2,176	4.71	10,375	10,253	1,814	5.65	

※志願者・受験者・合格者は一般選抜(一般入試とセンター試験併用入試に合計)。入学定員は全入試制度の合計。

出典:旺文社「蛍雪時代臨時増刊・全国大学内容案内号(平成26年8月号～平成30年8月号)」



資料6: 近隣の国際系学部の募集状況(一般選抜のみ)

大学	学部	学科	所在地	入学定員 (2018年)	平成26(2014)年度				平成27(2015)年度				平成28(2016)年度				平成29(2017)年度				平成30(2018)年度			
					志願者	受験者	合格者	倍率	志願者	受験者	合格者	倍率	志願者	受験者	合格者	倍率	志願者	受験者	合格者	倍率	志願者	受験者	合格者	倍率
共立女子	国際	国際	東京都千代田区	250	855	808	398	2.03	996	949	514	1.85	858	804	460	1.75	1,482	1,405	608	2.31	1,647	1,559	355	4.39
昭和女子	国際	国際	東京都世田谷区	100	920	900	295	3.05	770	761	210	3.62	815	805	254	3.17	1,106	1,075	238	4.52	1,141	1,109	182	6.09
拓殖	国際	国際	東京都八王子市	300	1,026	915	337	2.72	990	924	367	2.52	837	794	349	2.28	863	844	313	2.70	869	855	188	4.55
東海	教養	国際	神奈川県平塚市	80	294	280	106	2.64	277	270	162	1.67	394	378	161	2.35	526	511	146	3.50	462	454	122	3.72
明治学院	国際	国際	神奈川県横浜市	245	3,112	3,051	886	3.44	2,057	2,023	269	7.52	1,523	1,496	400	3.74	2,142	2,098	411	5.10	1,801	1,765	321	5.50
合計					6,207	5,954	2,022	2.94	5,090	4,927	1,522	3.24	4,427	4,277	1,624	2.63	6,119	5,933	1,716	3.46	5,920	5,742	1,168	4.92

※志願者・受験者・合格者は一般選抜(一般入試とセンター試験併用入試に合計)。入学定員は全入試制度の合計。

出典: 旺文社「蜚雪時代臨時増刊・全国大学内容案内号(平成26年8月号～平成30年8月号)」

資料7:18歳人口の将来推計

		H30 2018	H31 2019	H32 2020	H33 2021	H34 2022	H35 2023	H36 2024	H37 2025	H38 2026	H39 2027	H40 2028	減少幅 (H30→ H40)
全国	人数	1,174,801	1,167,264	1,138,252	1,117,821	1,093,733	1,063,487	1,090,217	1,091,937	1,083,658	1,067,881	1,066,235	9.2
	2018年比	100.0	99.4	96.9	95.1	93.1	90.5	92.8	92.9	92.2	90.9	90.8	
南関東	人数	306,595	303,812	300,812	297,703	292,454	285,268	294,226	296,534	295,171	293,761	293,449	4.3
	2018年比	100.0	99.1	98.1	97.1	95.4	93.0	96.0	96.7	96.3	95.8	95.7	
埼玉	人数	65,474	65,634	64,459	63,409	62,314	61,729	63,382	63,178	62,348	62,024	61,458	6.1
	2018年比	100.0	100.2	98.4	96.8	95.2	94.3	96.8	96.5	95.2	94.7	93.9	
千葉	人数	55,425	55,220	54,754	53,661	53,085	52,319	53,660	53,619	53,270	52,200	51,795	6.5
	2018年比	100.0	99.6	98.8	96.8	95.8	94.4	96.8	96.7	96.1	94.2	93.5	
東京	人数	105,727	104,017	103,402	103,099	101,271	95,621	99,444	101,440	101,931	102,954	103,400	2.2
	2018年比	100.0	98.4	97.8	97.5	95.8	90.4	94.1	95.9	96.4	97.4	97.8	
神奈川	人数	79,969	78,767	78,197	77,534	75,784	75,599	77,740	78,297	77,622	76,583	76,796	4.0
	2018年比	100.0	98.5	97.8	97.0	94.8	94.5	97.2	97.9	97.1	95.8	96.0	

出典:文部科学省 学校基本調査より

出典:リクルート総研 18歳人口推移、大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向 2017より

## 資料8:私立大学・航空操縦学分野の学費一覧

大学	学部	学科	入学金	授業料	実験実習費	施設設備費	教育充実費	その他	合計	4年間総額	備考
千葉科学	危機管理	航空技術危機管理 -パイロットコース	300,000	850,000	200,000	350,000			1,700,000	5,900,000	左記に加え、1年次3月に\$126,000
法政	理工	機械工学 -航空操縦学専攻	240,000	1,144,000	486,000		312,000		2,182,000	11,902,000	左記に加え、訓練費として概算1,400万円必要
東海	工	航空宇宙 -航空操縦学専攻	300,000	855,000		250,000		500,000	1,905,000	7,020,000	左記に加え、留学中における授業料約\$83,900が必要
崇城	工	航空宇宙システム工 -航空操縦学専攻	220,000	1,040,000	1,200,000				2,460,000	16,000,000	左記に加え、航空機燃料代3,580,000円が必要
第一工業	工	航空工 -パイロット資格コース	150,000	760,000		800,000	400,000		2,110,000	7,990,000	左記に加え、訓練費で8,255,000円+38,914ドル

出典:各大学のHP

## 資料9:近隣の観光系、国際系学部の学費一覧

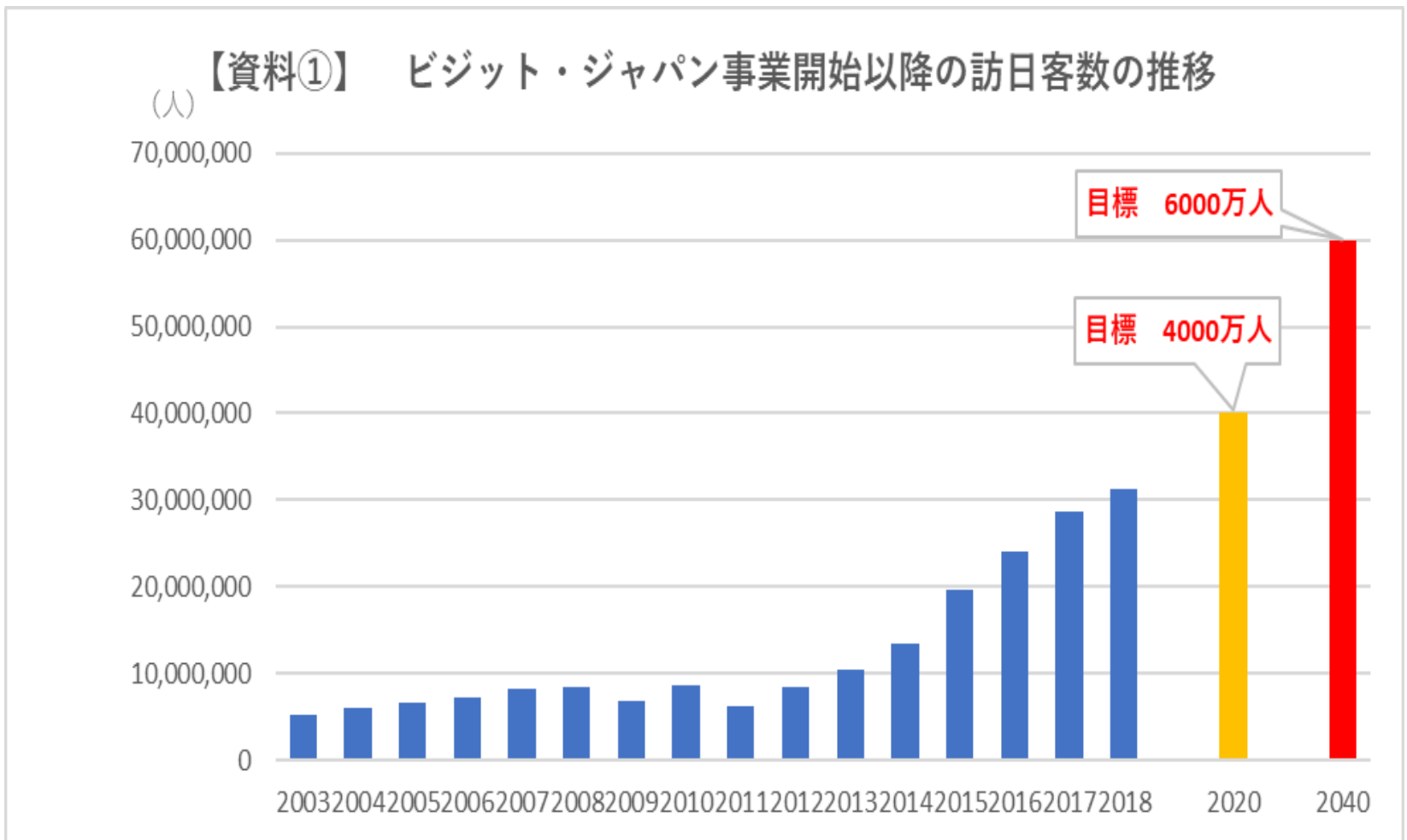
### ◆観光系学部

大学	学部	学科	入学金	授業料	実験実習費	施設設備費	教育充実費	その他	合計
跡見学園女子	観光コミュニティ	観光デザイン	200,000	742,000		260,000			1,202,000
亜細亜	経営	ホスピタリティ・マネジメント	230,000	670,000		240,000			1,140,000
杏林	外国語	観光交流文化	250,000	720,000	0	200,000			1,170,000
駒沢女子	人間総合学群	観光文化学類	300,000	800,000	36,000			200,000	1,336,000
玉川	観光	観光	250,000	1,014,000		200,000	205,200		1,669,200
帝京	経済	観光経営	250,000	780,000		217,000			1,247,000
帝京平成	現代ライフ	観光経営	200,000	800,000		293,000			1,293,000
東洋	国際観光	国際観光	250,000	780,000		220,000			1,250,000
東海	観光	観光	300,000	770,000		250,000		157,000	1,477,000
松蔭	観光メディア文化	観光文化	330,000	690,000	70,000		70,000	80,000	1,240,000
横浜商科	商	観光マネジメント	300,000	700,000		195,000	69,000		1,264,000

### ◆国際系学部

大学	学部	学科	入学金	授業料	実験実習費	施設設備費	教育充実費	その他	合計
共立女子	国際	国際	150,000	720,000		390,000			1,260,000
昭和女子	国際	国際	200,000	825,600	50,000	260,000			1,335,600
拓殖	国際	国際	200,000	907,000		230,000			1,337,000
東海	教養	国際	300,000	855,000		250,000		157,000	1,562,000
明治学院	国際	国際	200,000	876,000		175,000	43,500		1,294,500

出典:各大学のHP



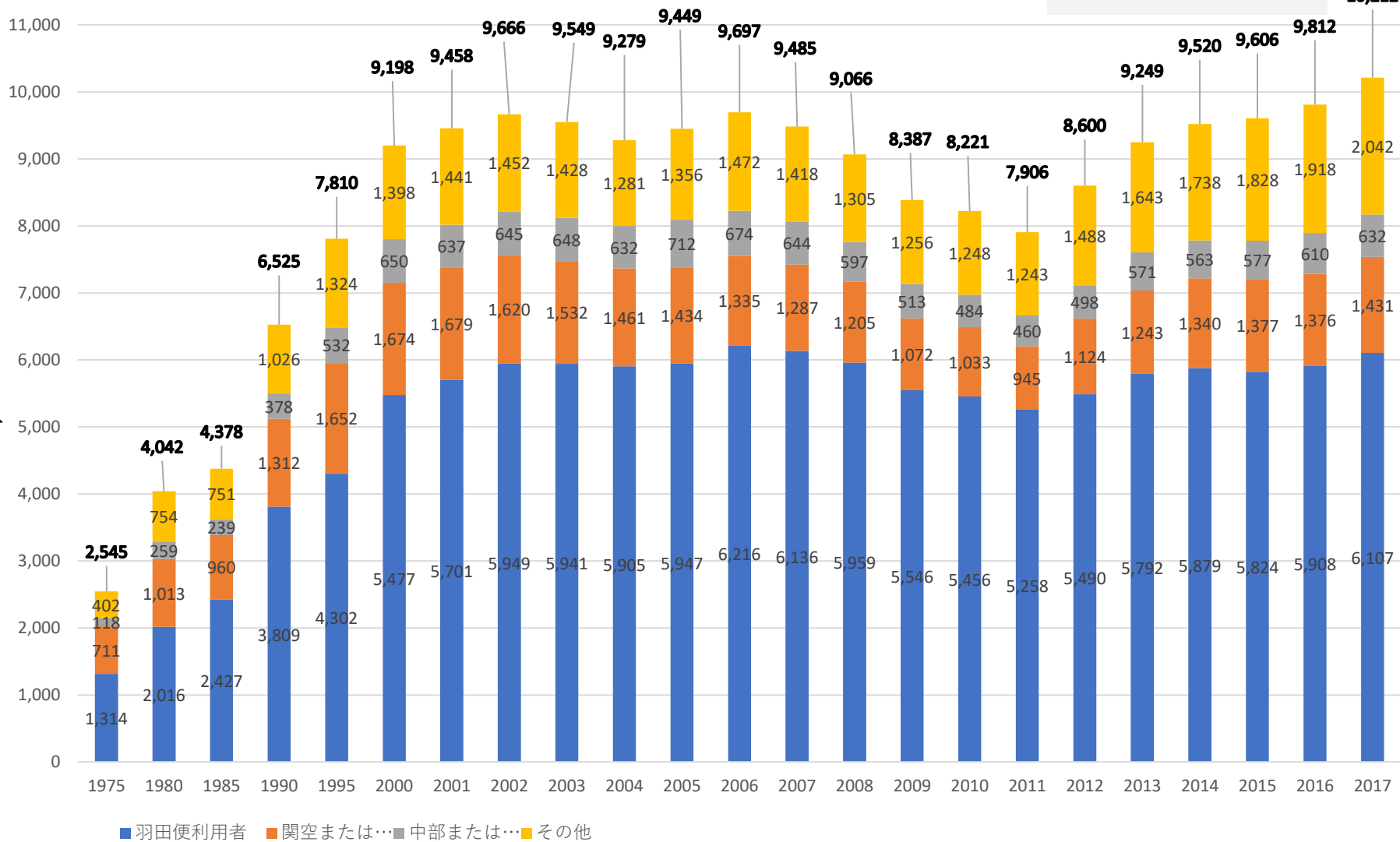
※2018年は推計値  
※2030年、2040年は『明日を支える観光ビジョン』より

出典：日本政府観光局HP

## 【資料②】国内航空旅客数の推移

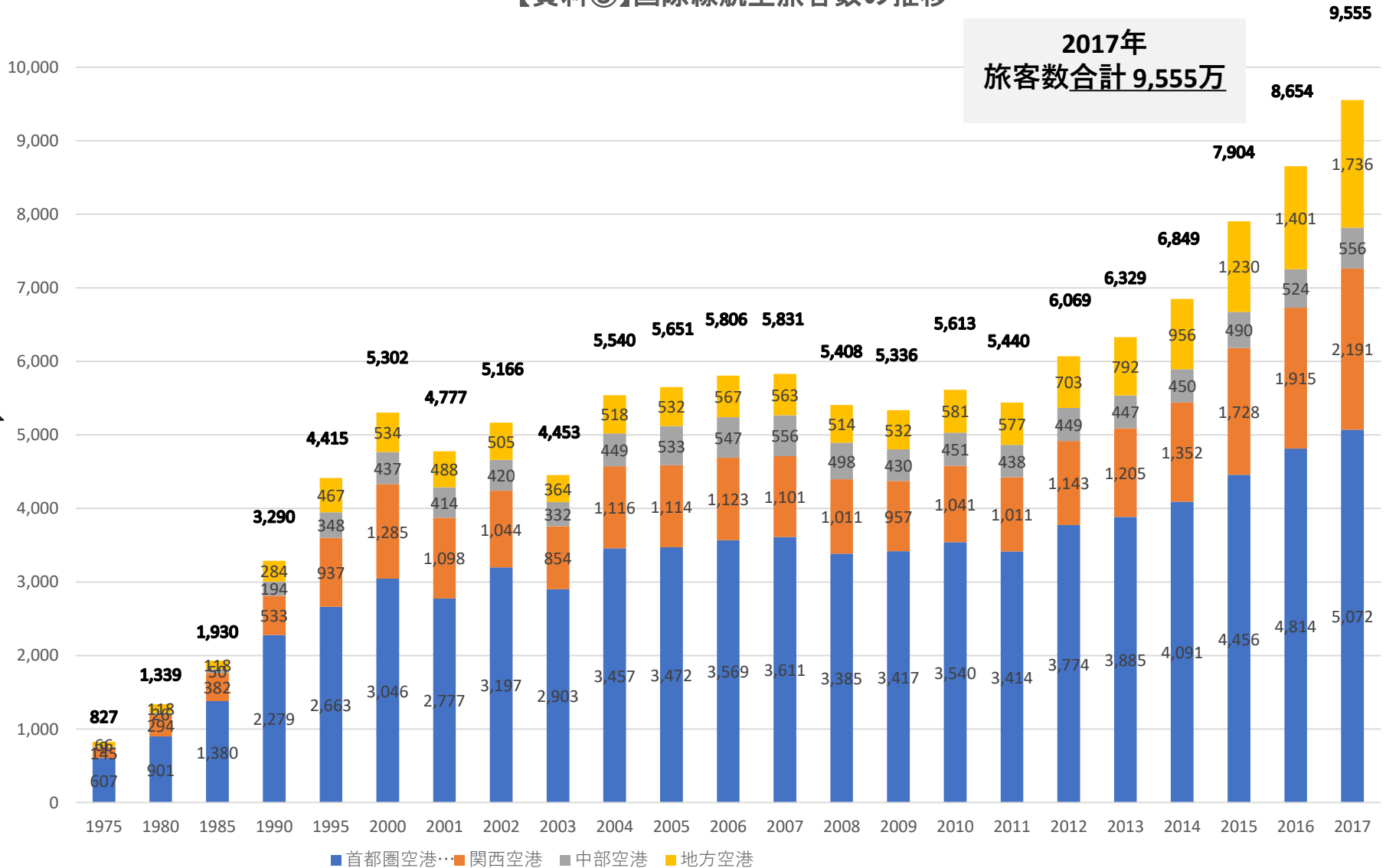
(万人)

2017年  
旅客数合計 10,212万人



※航空輸送統計年報より航空局作成  
出典：『最近の航空行政の方向について』（平成30年10月 航空局）  
一般社団法人航空交通管制協会セミナー資料

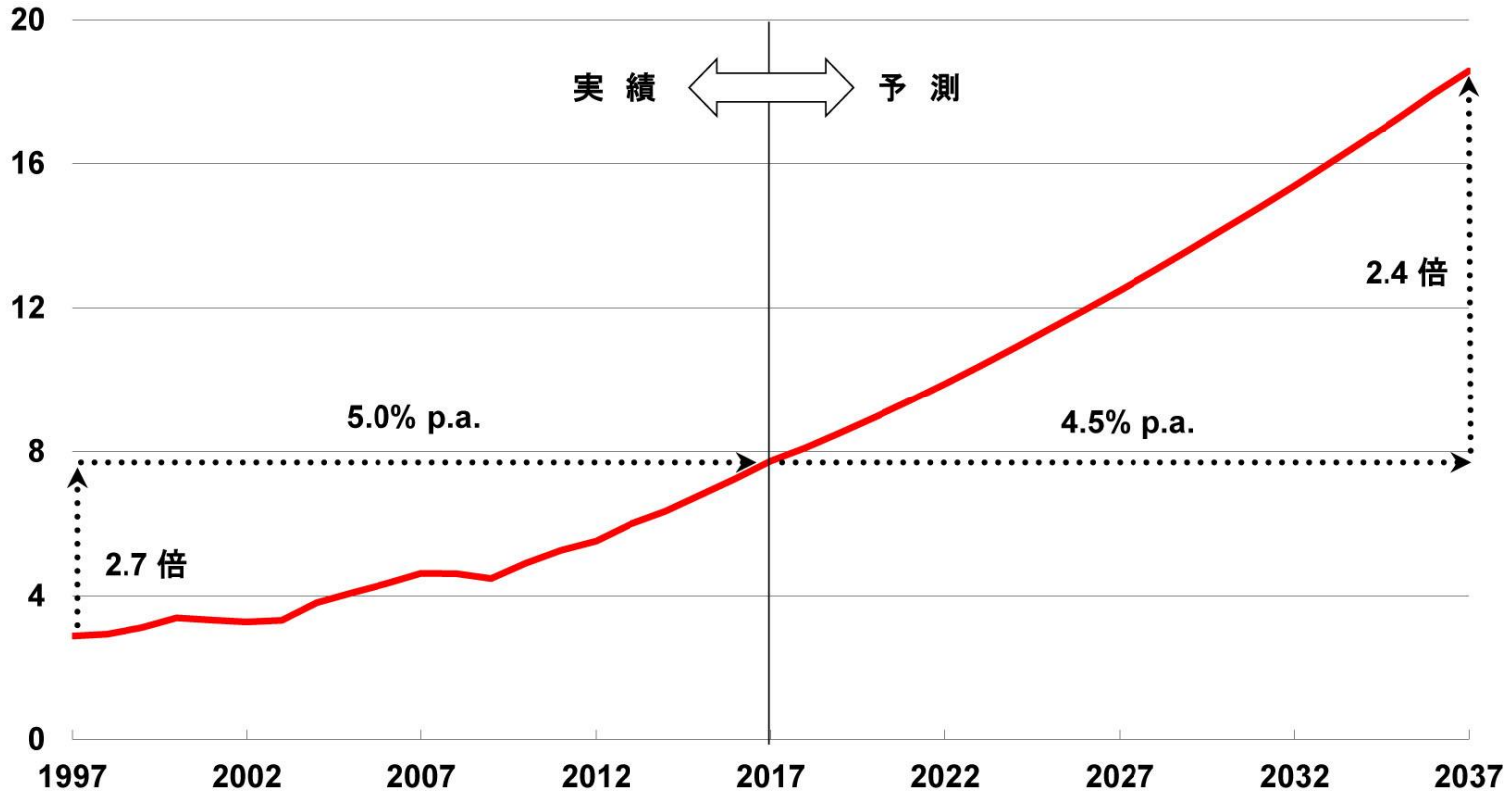
### 【資料③】国際線航空旅客数の推移



※航空輸送統計年報より航空局作成  
 出典：『最近の航空行政の方向について』（平成30年10月 航空局）  
 一般社団法人航空交通規制協会セミナー資料

# 世界の航空旅客予測

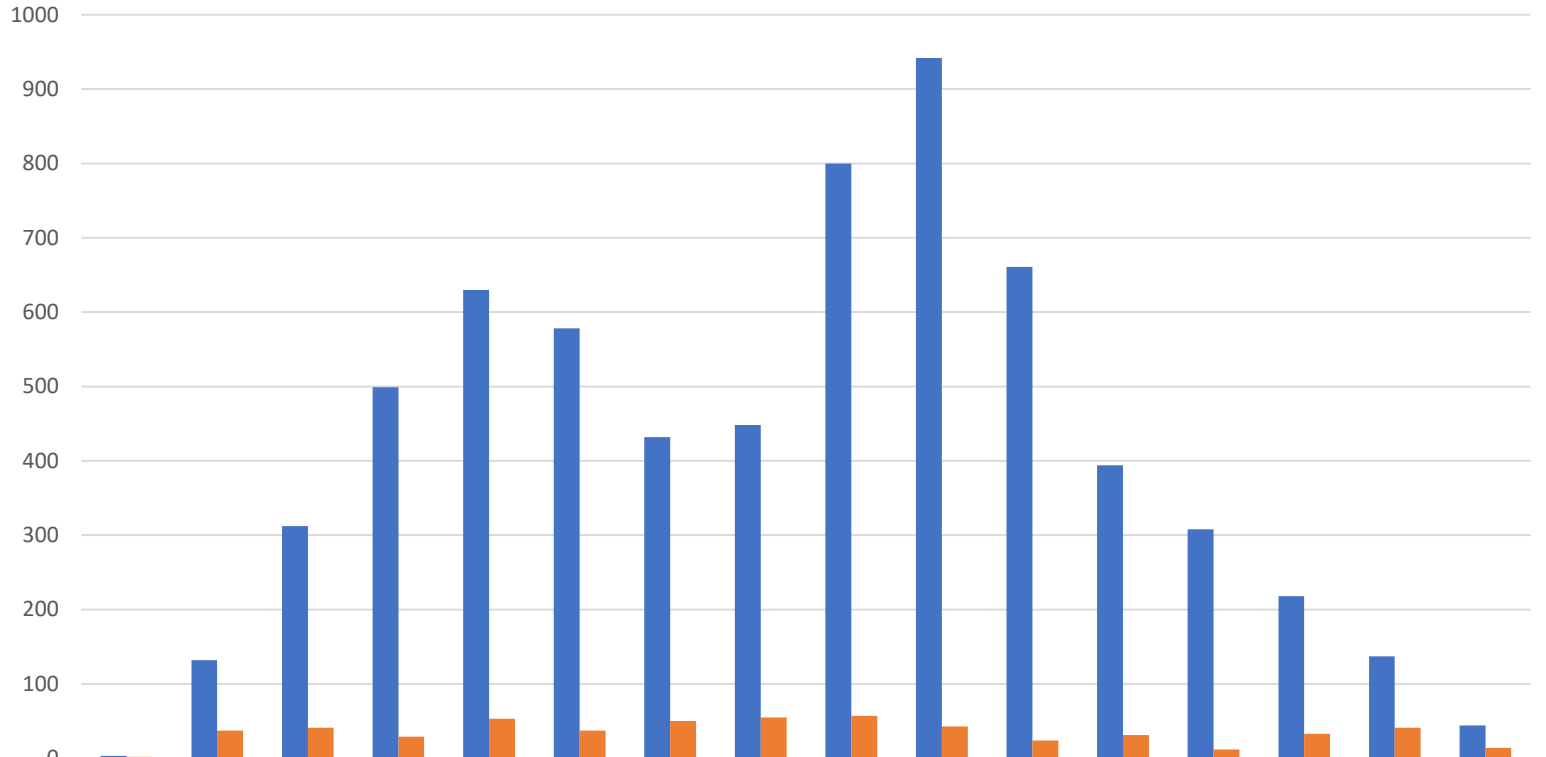
航空旅客輸送量  
(兆人キロメートル)



出典：『民間航空機に関する市場予測 2018—2037』  
(日本航空機開発協会)



【資料⑤】操縦士の年齢構成



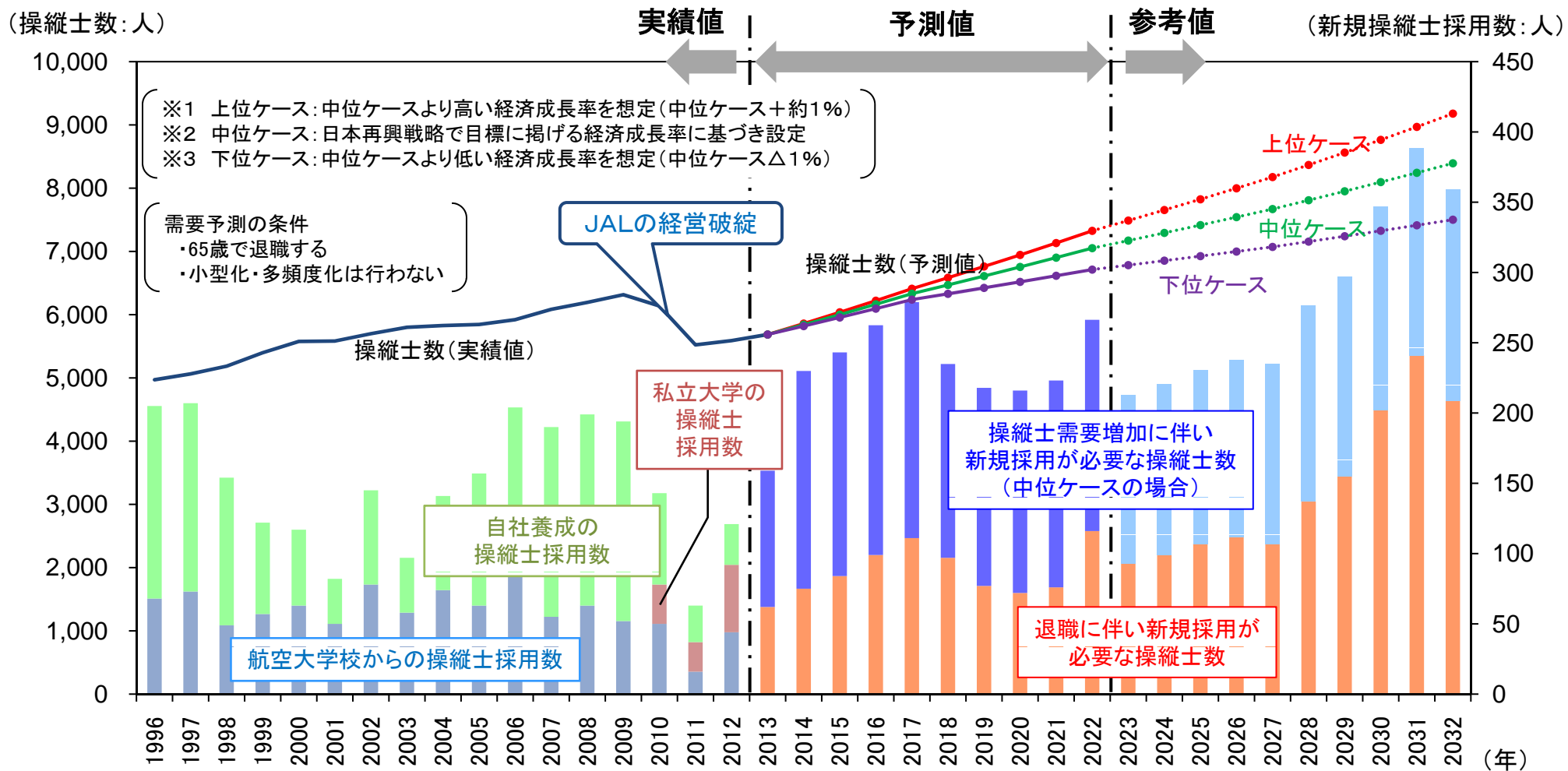
	21-23	24-26	27-29	30-32	33-35	36-38	39-41	42-44	45-47	48-50	51-53	54-56	57-59	60-62	63-65	66-67
■ 主要航空会社合計	3	132	312	499	630	578	432	448	800	942	661	394	308	218	137	44
■ LCC航空会社合計	2	37	41	29	53	37	50	55	57	43	24	31	12	33	41	14

# 我が国の操縦士の需要予測

○航空局において、航空需要予測に基づき、操縦士需要予測を実施した結果、2022年には約6,700～7,300人の操縦士が必要であると予測されており、年間で約200～300人の新規操縦士の採用を行っていく必要がある。

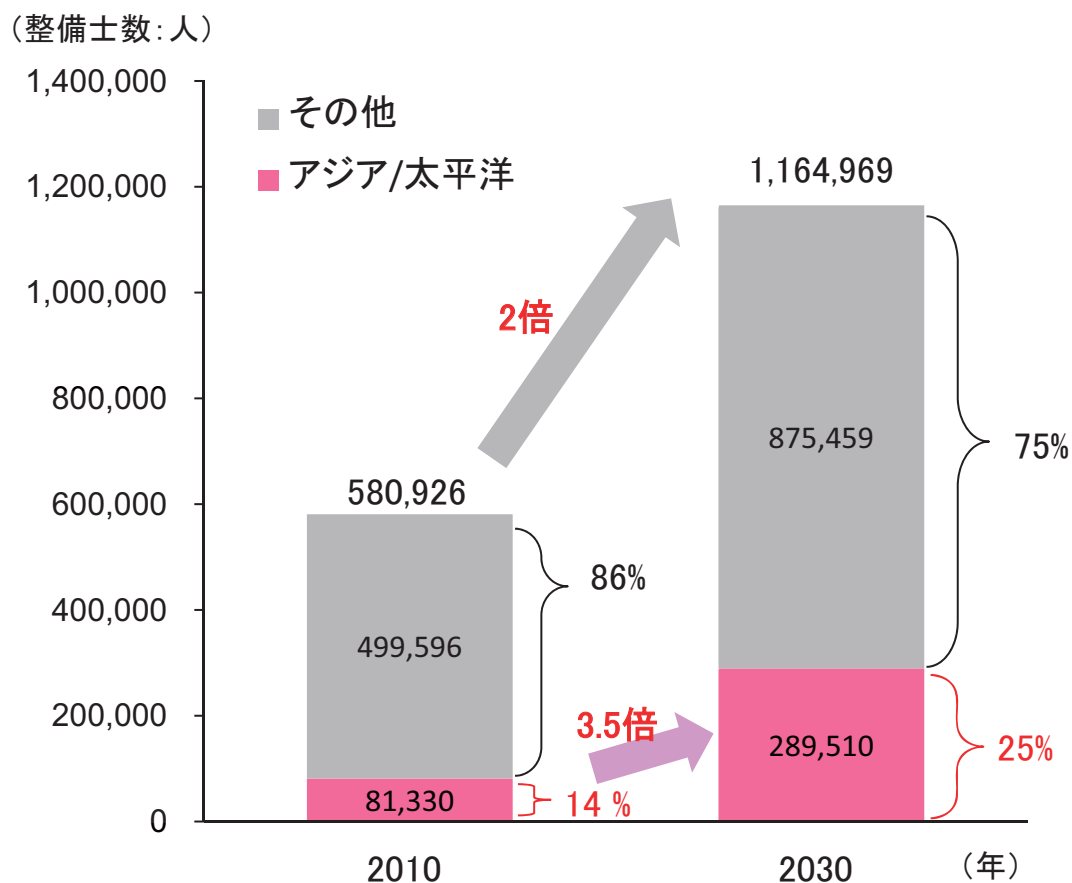
○2030年頃になると大量退職者が発生することから、年間400名規模で新規操縦士の採用をしなければならない事態が訪れると予測される(「操縦士の2030年問題」)。

○現在の新規操縦士の供給量を考慮すると、今後の新規操縦士採用の需要を満たすことが困難であるため対策が必要。



# 国際的な整備士の需要見通し

- 世界的な航空需要の増大に伴い、国際的に2030年には現在の2倍の整備士が必要とされると予測されている。
- アジア／太平洋地域では、2030年に現在の約3.5倍の整備士が必要とされると予測されている。



	(人)	
	世界	アジア/ 太平洋
2010年時点の整備士数	580,926	81,330
2030年時点の整備士数	1,164,969	289,510
整備士の必要養成数(年間)	70,331	19,010
整備士の供給可能数(年間)	52,260	4,265
整備士需給バランス(年間)	△18,071	△14,745

※航空運送事業の用に供する航空機の数約6.2万機(2010年)から約15.2万機(2030年)に増加するとの予測に基づき推計

## 整備管理スタッフの育成における課題

### ✓ 整備経験者の不足

自社や他社での整備経験者は一部しかおらず、それ以外の者は**航空業界の未経験者や社内の他本部からの異動者**で構成されている。

部門教育等を行っているが、整備管理スタッフ全体でのレベルアップを目指している。

(将来的には、現場で整備経験を積んだ者を整備管理部門に異動させる予定。)

### ✓ 整備作業、使用機材、法令・規程に関する知識充足

機体ハードウェアや整備作業そのものに関する教育訓練は、**整備管理スタッフには通常は行われ**ない。

従って、各スタッフへの知識付与は、各部署の基礎教育のみで、業務深化に合わせた、より専門的な教育や研修の機会の実施を検討している。

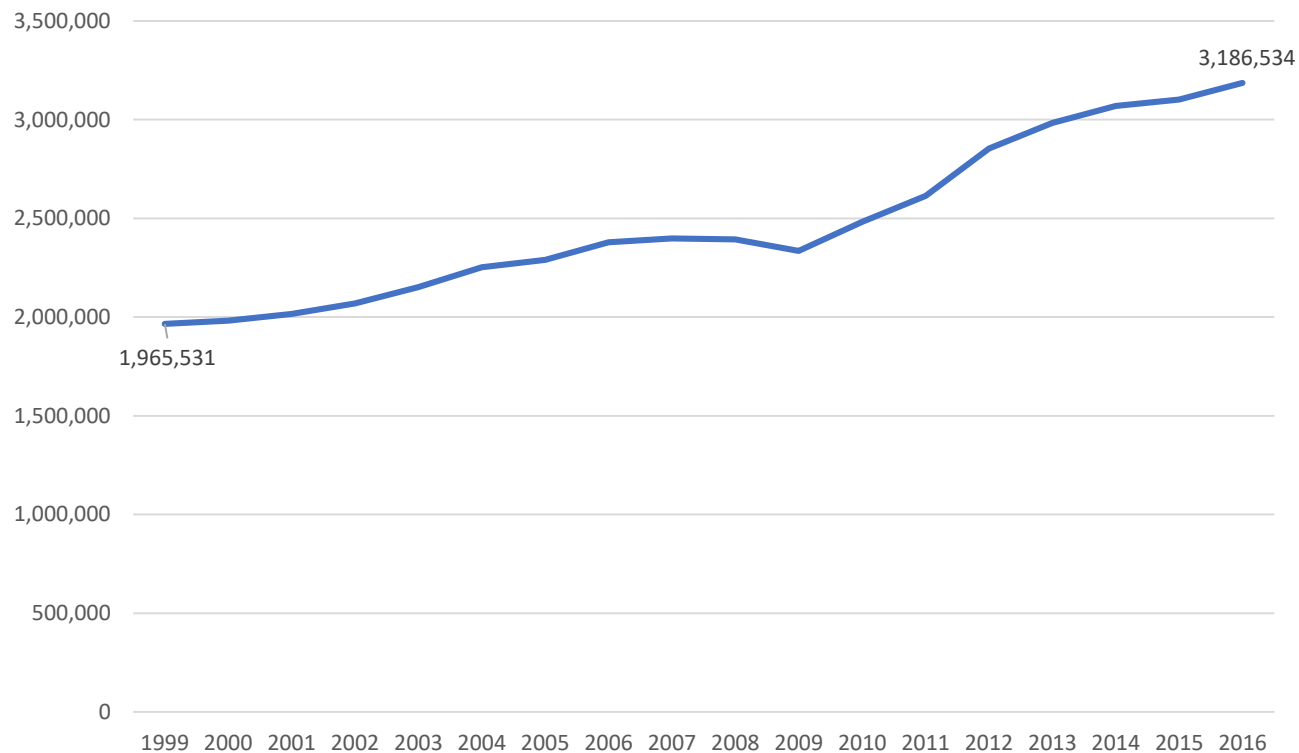
(今年度は、勉強会等の展開を進めている。)

### ✓ 現場とのコミュニケーション

整備経験者が少ないこと、機体知識の不十分さ等から、**現場の整備従事者とのコミュニケーションの観点では、共通認識に不足が見られる。**

上述の教育や研修等にて、レベルアップを進めたい。

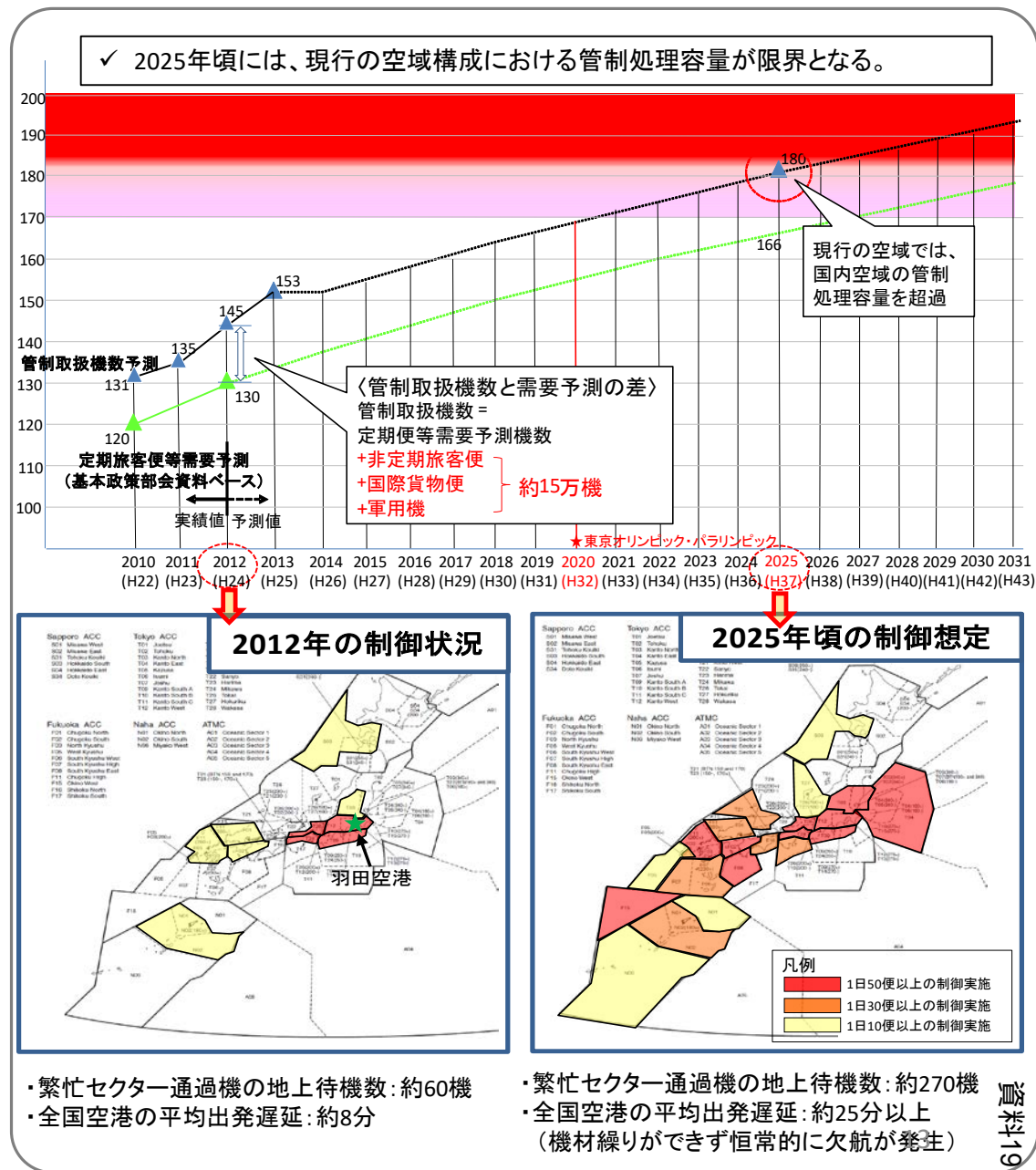
### 【資料⑦】 航空取扱機数（管制）の推移



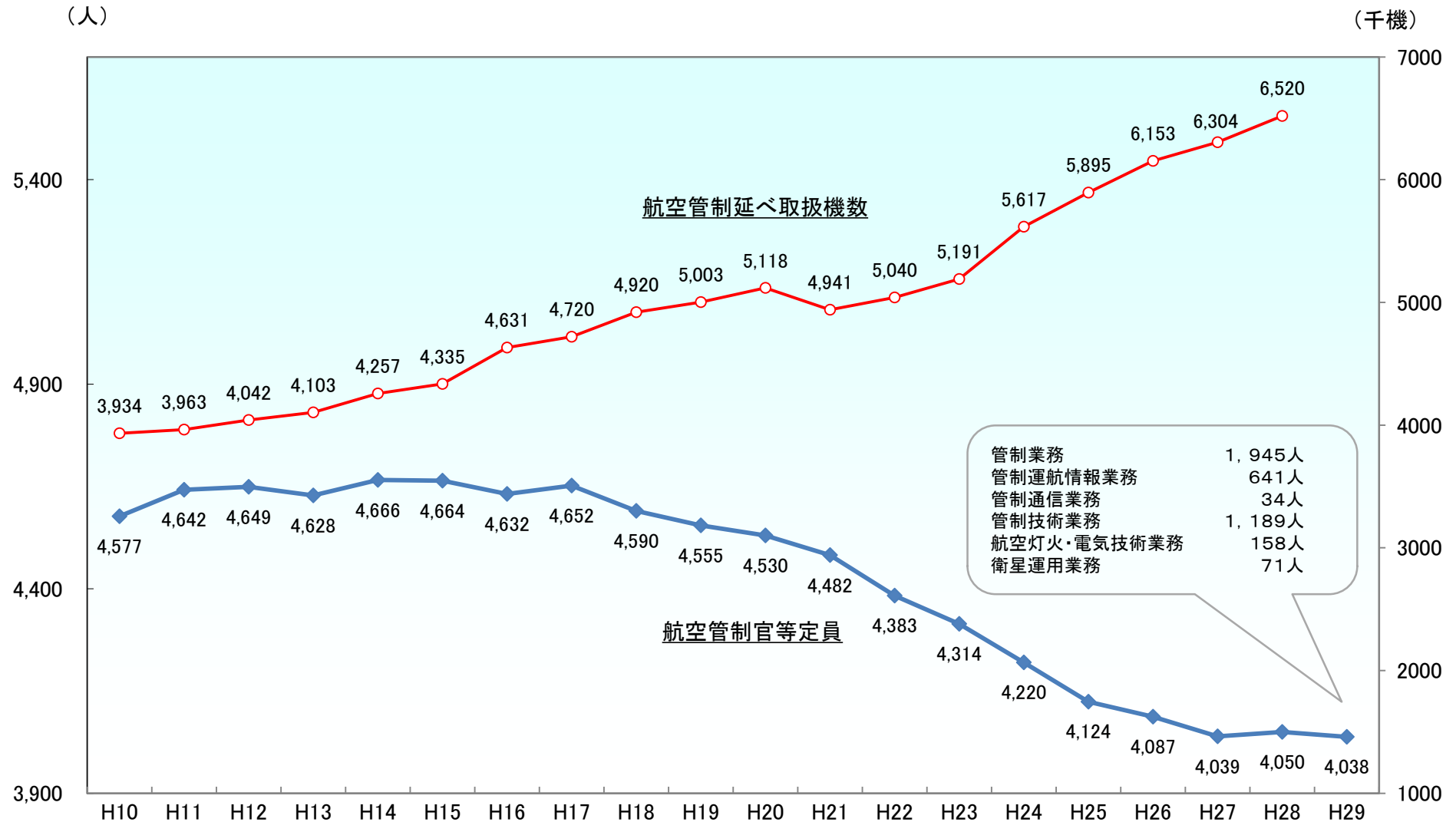
出典：平成29年度航空管制セミナー『航空管制の課題と今後の取組』（2017年10月26日）国土交通省航空局

## <将来の見通し>

- 需要予測によると、今後、国際線・上空通過機を中心に総交通量が増加し続ける見込みとなっている。
- その場合、既に繁忙なセクターは交通流制御が実施される機会が増えるとともに、新たに交通流制御が必要となるセクターが生じる。
- 2025年(平成37年)には、出発待機による平均遅延時間が25分を超えると想定される。夏季等繁忙期間においては、30分を超える遅延が恒常的に発生することが想定される。
- また国内線については、ダイヤ通りの運航が困難となるとともに、機材繰りができず欠航となるケースが発生すると想定される。



# 航空管制延べ取扱機数と航空管制官等定員の推移



※ 航空管制延べ取扱機数とは、各管制機関において取り扱った航空機の数である。  
 ※ 航空管制延べ取扱機数は暦年のデータ、航空管制官等定員は年度末の定員である。

【資料⑪】桜美林大学ビジネスマネジメント学群の就職実績 1(2017年度)

学群	性別	卒業者	就職		進学	非正規雇用※1	その他1※2	その他2※3
			就職希望者数	就職決定者数				
リベラルアーツ学群	男	426	350	333	15	8	25	28
	女	572	487	466	23	17	14	31
	計	998	837	799	38	25	39	59
ビジネスマネジメント学群	男	139	113	108	12	6	7	1
	女	301	270	267	9	4	9	9
	計	440	383	375	21	10	16	10
健康福祉学群	男	97	84	81	7	1	2	3
	女	105	95	91	6	3	0	1
	計	202	179	172	13	4	2	4
芸術文化学群（総合文化学群）	男	72	35	28	4	3	27	3
	女	172	98	91	7	7	51	9
	計	244	133	119	11	10	78	12
総計	男	734	582	550	38	18	61	35
	女	1150	950	915	45	31	74	50
	計	1884	1532	1465	83	49	135	85

(単位：人)

※1 アルバイト・パート

※2 芸術活動、資格試験等受験準備、帰国ほか

※3 進路未定等



## 【資料⑫】 桜美林大学ビジネスマネジメント学群卒業生の進路

